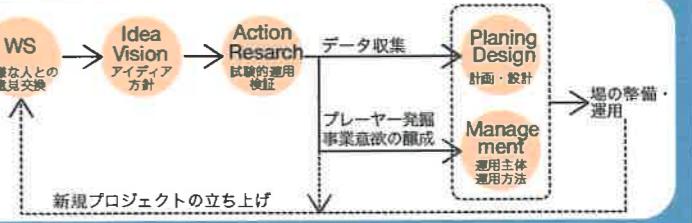


現在の西郷港は、船の乗降や車での送迎に重点を置いた交通の結節点となっていますが、住民や観光客にとって通り過ぎるターミナルとなっています。私たちの提案の中軸は、車中心の通過型ターミナルではなく、人を中心とした滞留型ターミナル(滞留=居場所)とすることです。船を持つ人が立ち寄り、船から降りた人が散策する風景がまちの庶民的になります。

まちを絞入れ替えるような再開発手法ではなく、高速移動の利便性のみを追求した計画でもありません。ふと足をとめることのできる居心地の良い場所が発見できるまちづくりであり、島民の生活に寄り添った計画です。下図はコンセプト図です。これらは私たちが提案するアイデアですが、ワークショップや社会実験を通して、検証しながらプロジェクトを進めます。

小さくはじめ、ゆるやかに大きく育てる -計画の進め方-
整備優先でなく、小さな場・コトの実験を繰り返しながら計画とプレーヤーを大きく育めていくプロセスです。小さな場の仮運用や実験を行うことで、エリアの新たな価値創造や計画ポリュームの適正化を図るだけでなく、マネジメントの担い手となる若者・移住者、自ら責任をもち事業を遂行する地域企業や組織などの機運を盛り上げることで、緩やかに、断続的に開発意欲と賑わいを高めていくプロセスをデザインします。



海とともに暮らす新島守プレイス-見え隠れする地域の資源を結ぶプラットフォーム-



5つの方針

1. 通過する場所から居場所となる「みなと広場」
2. まちと海をシームレスにつなぐフェリーターミナル
3. まちなかの「らしさ」を尊重した小規模連鎖型開発
4. 回遊したくなる隠れのまちなかづくり
5. 交流機能ワークショップをきっかけとした島のエリマネ組織づくり



1 通過する場所から居場所となる「みなと広場」

現在、フェリーから見た隠岐の島町の玄関口は、アスファルトとコンクリートの無機質な街並みが広がっています。現行の2車線の道路を廃止し、広場とすることを提案します。観光に来る人や海辺で過ごす人、船を待つ人にとって居心地のよい象徴的な玄関口です。

駐車場や車待合スペースの利用方法が変わりますが、これらは住民協議や社

会実験を実施し、その結果にもとづいて決定することを想定しています。

みなと広場は、ガラスのあづまや（キオスク／待合スペース／食事スペースを利用）と植栽によるまちなかの居場所です。港からフェリーターミナル、まちなかまでの一体的な舗装は、歩行空間と視線の連続性を高めます。

駐車場や車待合スペースの利用方法が変わりますが、これらは住民協議や社

現状	提案
車路や建物によってまちと海とが分断されています。 下記は、現地ヒアリングを基にしたピーク時の駐車台数の想定です。	車路廃止分で町営駐車場を拡張し、駐車台数を増やします。交流機能等の整備によって駐車台数が増加した場合は、港職員とフェリー利用の中長期駐車場利用者は、現存する立体駐車場へ誘導します。また、全国的に人口減少が想定されているため、今後もまちなかで一定の規模で空き地が自然発生することが予測されます。それらの駐車場利用を想定します。
駐車台数合計：123台 送迎利用：49台（複数駐車場含む） 当日利用：37台 中長期利用：37台	駐車台数合計：137台（普通車サイズで計算） 北側駐車場（送迎・当日利用）：57台 南側駐車場（送迎・当日利用）：80台 中長期利用：車の増加によっては、立体駐車場へ誘導

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

タクシーアリーフ
駐車場
バス停
フェリーを降りた車の動線

中長期利用・従業員利用は既存立体駐車場を誘導する。
1日500円及び月極

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽船貨物扱所付近③フェリーターミナル南側の3候補とします。

立体駐車場候補その1
立体駐車場(3F)
13台×3層=39台
※貨物扱所は移転する

立体駐車場候補その2
立体駐車場(3F)
24台×3層=72台

立体駐車場候補その3
立体駐車場(2層)
39台×2層=78

貨物扱所跡地

別途確保する

まちと海とがシームレスな計画

みなと広場

送迎・当日利用に誘導する。
60分無料・1日1000円

ピロティ駐車場とした場合、2階を交流機能とする

立体駐車場の候補地は、①国道485号と県道池田中町線の交差点②隠岐汽

未来の隠岐の島を創る

海と街 豊かな自然と美しい街並み にぎわいと安心を未来に"つなぐ"



真っ青な海に深い緑の山、潮風香る石畳と黒松の通りに、小気味良く赤瓦と板壁の街並みが連なっていく。ここはいつたい何時から時が止まってしまったのだろうか？200年前の北前船の船乗りも同じような景色を見ていたのかもしれない…私は今、隠岐の島に来ている。太古からの地形や生態系が保存された独特な景観で知られ、暖流と寒流が交わる日本屈指の漁場に囲まれた、世界中の釣り人憧れの『釣りの聖地』としても有名な島である。豊富な海の幸はもちろん、放牧牛や自然農法などブランド食材の宝庫でもあり、世界有数の『美食島』としても知られている。また、サステナブル界隈ではかなり有名な先進地であり、多くの神社と共に土着的な祭りや風習が今尚保存され、農業や漁業、森や海や建築や観光業など1次産業から6次産業までが相互循環的につながり、見事な大輪を描く。とても豊かな島だ。幸運なことにそんな隠岐の島での、メシ三昧・海三昧・ジオ三昧の一週間の予約が取れた。

Ps 先程から外国人から家族連れまでターミナル付近はすごい人だ…（笑）今日は有名な祭りがあるらしい…レトロなデザインだが自動運転のバスやフライトタイプの最新のモビリティーまでしっかりある（笑）やはりここもれなく2040年なのか… 私はのんびり街歩きにでも出かけよう…

未来人 2040.0605

デザインコンセプト

■未来に無理なく、自然に“つなげられる”ありのままの隠岐の島の“循環”をデザインする。

■ジオパークのある隠岐の島らしいカーボンストレージで地球に優しいデザインとする。

■作為や華美なデザインをせず、この島の素形をそのまま引き出す。

■隠岐の島でとれる木材や石、近場の名産である石州瓦などを使い、未来永劫ずっと作りつけられる建築をつくる。

■北前船の船乗りも見たであろうこの島ならではの景観を100年後の未来にもつなげる

■大きな建物は造らず小さな家形が寄せ集まり、大きくも小さくも使って、いつでもそれが新陳代謝を繰り返しやすいようにつくる。

■隠岐の島らしく、どこか懐かしさを感じる心のふるさとのような景観をつくる。

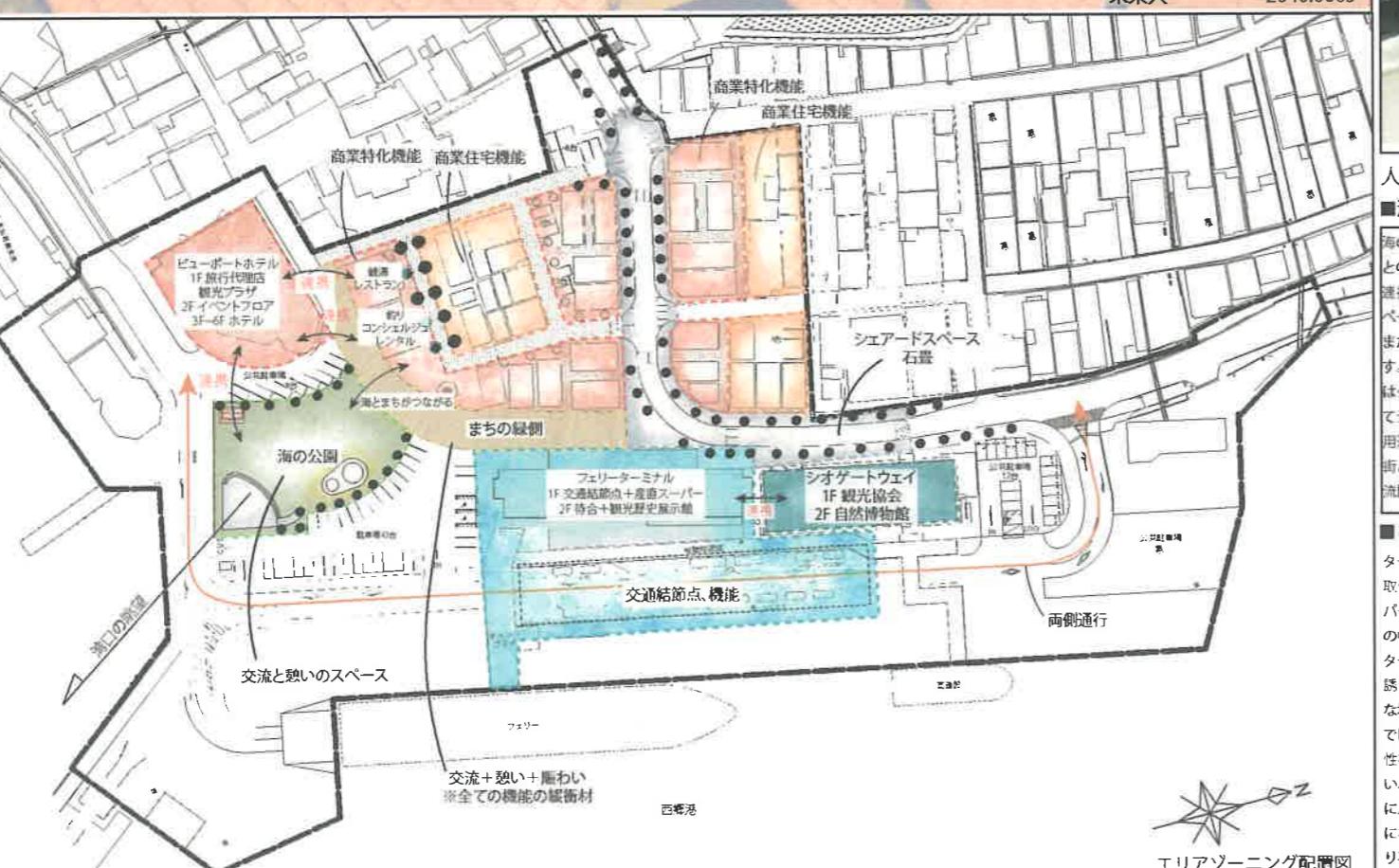
■ここに住む人が土地の事、歴史や伝統を自然と学べ隠岐の島に生まれ育ったことを誇りに思える計画とする。

■隠岐の古代からの歴史や地層のようにそこに暮らす人が行為を“積み重ね”ながら変化していく柔軟で余白のあるデザインをつくる。

■このエリアから周りの街にも増殖、広がっていくような道標となる景観をつくる。

■建築がある事によってその場所がより美しく、より愛おしく感じられるデザインとする。

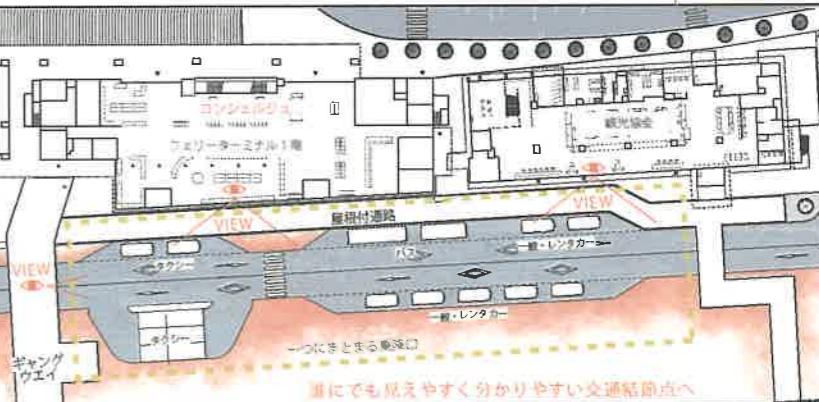
■100年後にもこのエリアのアイデンティティーである外貨を稼ぐこと、島外との交流やプロモーションをしっかりと果せるデザイン計画とする。



西郷港周辺地区を交通結節点とした交通機能

■一つにまとまつた乗り換え空間が誰にでもわかりやすく島を一つに“つなぐ”

ターミナル・ジオパーク前の港湾道路に公共バス・観光バス・タクシー・レンタカーと隠岐の島の交通システムの乗降スペースを一つにまとめて配置。フェリーの駆け口から続くガラスのギャングウェイからも一目で分かる配置計画。ターミナルが全ての交通機能の待合になっていて、ガラスのカーテンウォールから見えやすく誰にでも分かりやすい交通結節点へ。またターミナル1Fのコンシェルジュ部分に交通のシステムや時間などもわかりやすく表示し、島を一つにつなぐ交通結節点へ。公共バスは住民の多さや高齢化の加速する今後の状況・宿泊施設や商店が多く観光客を増やしていくか今後を考えるとフェリーターミナルがバス交通の結節点の一つにならなくてはならないでしょう。ターミナルの元気が島の元気を作ります。



誰にでも見えやすく分かりやすい交通結節点へ

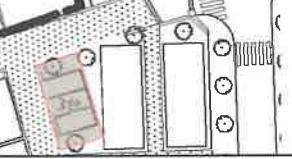
■石畳のシェアードスペースや街の縁側・横丁の道など歩行車優先の道がにぎわいと交流を“つなぐ”



情緒ある石畳のシェアードスペースが車の速度を制限し、プライオリティーを車から歩行者に変えていきます。道幅を歩道を広く、車道を狭く整備し、ウインドウショッピングや散歩など歩きたくなる道路空間になっていきます。また店と店の間にも小さな道を通す横丁のような空間を通す事でどんどん奥に入りたくなる楽しさと裏への回遊性が増し、にぎわいが広い範囲に増殖していきます。ターミナルからビューポートホテルまでは車の入れないウッドデッキ舗装の“街の縁側”スペースとします。机や椅子を持ち出して店の延長としたり、住人が団碁や将棋をしていたり、イベントや休憩にも使える、用途や境界が曖昧な緩衝スペースです。歩行者優先の道空間が街歩きを加速させ、にぎわいと交流をつなげます。

■公共駐車場やちょっと駐車場等の余裕のあるスペースが暮らしと便利、未来を“つなぐ”

国道485沿いや汽船場通り沿い、区画の裏側に4つの公共駐車場とちょっと駐車場を配置、地元の人も買物客も運送屋さんもみんなが使いやすく便利で暮らしやすい駐車場計画とします。またそんな余裕のある余剰空間が未来の自動運転化やフライトタイプのパーソナルモビリティーなど未来の乗り物の受け入れもスムーズにします。



■グリーンスマビリティーが4つの街と台地、安心・安全を“つなぐ”



国道485号線や汽船場通り、自貫通り、西町通りなど4つの町をつなぐメインの通りが公共バス路線となっています。今後、高齢化が加速すると主要な道まで出てこれない高齢者が増えてくるでしょう。また災害があった時の避難を考えると家の整備や介護施設などの整備を急ぎたい所です。大きな整備ができないでもグリーンスマビリティーは低速で細い路地も走ってくれます。台地に公園やコミュニティーガーデンが整備され、老人福祉施設や子育て支援施設が整備されれば、既存の保育園施設と合わせて、避難に困窮する子供やお年寄りの憩いの場となり、普段からの避難訓練にもなります。防災の観点から考えるとても安心で安全なことです。グリーンスマビリティーは台地に分断され高密度に建築が立ち並ぶ4つの町の、細かく小さな道を細かく紐い、便利なターミナル付近や上がりづらい台地をつなげてくれます。いくつになっても同じ小学校の友達に簡単に会いに行ける街になるでしょう。台地が防災の結節点に、ターミナルエリアが交通と販賣の結節点になります。

人々が滞留し、それぞれに繋がりを持った交流機能

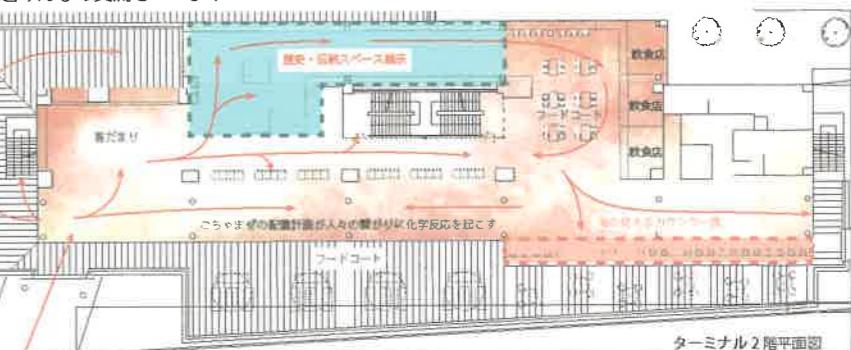
■海と街をつなぐ海の広場と街の縁側がみんなの交流を“つなぐ”

海の見える特等席に子供からお年寄りから観光客までみんなが思い思いに過ごすことのできる海の公園を作ります。しげさ節パレードの時は出発点として国道485と連携し、イベントがある時はボートプラザのイベントスペースとも対応できるスペースとなります。また公園と街の緩衝帯としてウッドデッキの“街の縁側”を設ける計画としています。これは公園を庭、街を居間と見立て時の日向ボカラボカラ“街の縁側”です。これはターミナルからビューポートをつなぐ導線の役割だけではなく、お店の延長としてテーブルや椅子を持ち出してご飯を食べたり、住民が団碁や将棋をしていたりと用途や境界が曖昧な交流に最適な寄合スペースです。海～海の公園そして街の縁側、街と、海から見ても街から見ても海と街がつながった気持ちの良い空間が人々の交流開拓につなぎます。



■ごちゃまぜの配置計画がそれぞれの機能とみんなの交流を“つなぐ”

ターミナルの1Fに住民も便利で観光客に取ってもお土産を買うのに最適な産直スーパーがあつたり、2F の待合スペースに島の中高生やビジネスマンに最適なカウンターがあつたり、はたまたジオパークへと説く島の神事や歴史を知れる美術館のような場所があつたりと、一つの機能の為だけではなくごちゃまぜに色々な意味性や機能性を混ぜる事で様々な交流が自然と溶け合って、お互いに良い刺激を受け、隠岐を誇りに思ったり、観光が楽くなったり、便利になったり、島民と観光客が友達になったり不思議な化学反応が起きます。



住み続けることができる暮らしの機能

■便利な商業機能と交流機能が永続的に暮らしていく環境を“つなぐ”

暮らしに便利なコンビニやATM、何でも売っている薬局、様々なお店が立ち並ぶ便利な場所にそれぞれちょっとしたベンチや休憩スペースを配置します。色々な場所で世間話に花が咲く、便利で暮らしやすい場所になってしまいます。

■ユニークなデザインがみんなにやさしい暮らしを“つなぐ”

いつまでも街に出てきやすいように、フラットで歩きやすく、手押し車や車いすでも快適な舗装空間となるよう計画します。またベンチや椅子など腰掛けられる場所を色々な所に作る事でいつまでもたくさん居場所のある、暮らしやすい街にします。

隠岐の島町の「顔」となる景観づくり 景観形成に関する方針

■景観形成のルール作りが脇わいと美しい街並みを“つなげる”

看板の大きさや色合い、外壁の板張りや漆喰、木製格子や日よけ暖簾、置き座ベンチ、等街並みの景観形成のルールをつくることで隠岐の島らしい景観を作っていく。修景助成事業などバックアップが整うと修景整備は加速します。またシェアードスペースと合わせて電柱の地中化を行うことで美しい街並みを創っていきます。

■隠岐の島産の素材を使った循環的で未来に“つなぐ”デザイン

最も隠岐の島らしい景観とは隠岐の島でとれる材料や近隣で作られる建材を使い半永久的に同じ景観を作っていくものです。そんな地元の材を使うことで材料代においても地元にお金が落ち、循環的で豊かな街になってしまいます。そんな最も自然でオリジナルなデザインが未来の人の心も打つものとなります。

防災に関して

防災対策として前項であげたグリーンストローモビリティや愛の橋の整備、供養坂の整備の他、台地に公園やコミュニティーガーデン、老人福祉施設や子育て支援施設を整備する事で、既存の保育園施設と合わせて、避難に困窮する子供やお年寄りなど避難弱者の多くが普段から台地の上にいる事になります。また日頃の避難訓練にもなります。

それ以外にターミナルの2Fのデッキ空間を広げている事。またデッキ空間へ上がるための外階段導線が完全歩行空間の街の縁側に直接接続されている為、街からのターミナルへの避難は容易です。また横丁の建物の1Fが店舗、2Fを住居もしくはコンドミニアムと設定している為、外階段仕様が多く街や横丁からスムーズに縦方向の避難が出来ます。

ターミナルエリアの再生と施設の運営や利活用について

今回のような場合、西郷港玄関口まちづくり計画策定委員会が作るまちづくり計画の策定だけではなく、まちづくり協定など景観形成の一定のルールづくりも合わせて策定する事が望ましいと思われます。そのことにより街並みの統一化がはかれ、観光客が潜在的に期待する隠岐の島らしい景観財産を作り、守っていく事が出来るでしょう。また観光情報や交通情報、まちづくりや市民とのリンクマンとしての機能も期待されるコンシェルジュや空き家の有効活用など4つの町をつなぐ観光リンク機能でもある街一体型コンドミニアムホテル。また隠岐の島の食文化や一次産業のプランディングにも寄与する出張レストラン。観光客も住民も喜ぶ海の見える絶景など中々民間だけでする事が難しくこのエリアにいると有益な事業を行なうための街づくり会社を作る事が望ましいと思われます。TMO&DMO型のまちづくり会社の設立により、住みやすく、観光にも優れたまちづくりをする体制を整えます。

リノベーションや新築等エリア整備図

■コンシェルジュ機能が島民と観光客、観光と街づくりを“つなぐ”

ターミナル1Fに交通の事、観光の事、神事やイベントの事、はたまた街づくりの相談などみんなが色々な事を聞いたり、相談できる。コンシェルジュ機能を配置します。コンシェルジュ機能がリンクとなり観光をもっと楽しく、街づくりをもっとみんな、住民の暮らしをもっと豊かにナビゲーションします。こちらも住民と観光客の機能をこちやまぜに混ぜる事で自然と交流を生みコンシェルジュがリンクマンとなりお互いの交流を発展させる仕掛けです。

■海の見える温泉湯が街の人の健康と交流、自然の循環システムを“つなぐ”

海の見える広場の隅にみんなの憩いのサロンとなる銭湯を計画します。石油よりも安い薪をエネルギーに島の間伐材を使い、自然と山の手入れが行き届き、島にお金が落ちてくる循環システムです。岡山の西廻倉でも行われ、山がどんどん活きた山になり経済が生まれています。街の象徴的な場所でジョバーーらしい土地を大事にするシステムが交流のシンボルとなります。またレストラン・喫茶店と共にコインランドリーを併設する事で長期滞在の観光客や厳しい冬を迎える住民も助かる場所となります。

■人々のふれあいを生かした商業空間

■小さな建物の寄せ集まる横丁空間がにぎわいと循環的で空き家の無い未来を“つなぐ”

大きな空間はなるべく小さくし、横丁空間のように細かい道を入れる事で1つの建物が2つ3つと道に囲まれます。このことによりテナントも2つ3つに割る事が出来、安い家賃設定が可能となります。若者のチャレンジや一人でお店をしたい人等色々な人がお店を出せる場所になります。もちろん2棟つなげて大きく使うこともあります。色々な店が並ぶことでまちが面白くなりにぎわいを呼びます。また横丁空間はメインの道だけではない細い道へも入を誘い、街の回遊性を生みます。大家さんにとっても借り手にとってもうれしいにぎわいと空き家の無い未来を作るシステムです。

■釣りの聖地化が隠岐の島の豊かな未来に“つなぐ”

隠岐の島は目に見える大地のランドスケープだけでなく海の中も魚たちの楽園と呼べる天然の漁港となっています。暖流と寒流がはじりあう世界有数の漁場です。実際観光客やリピーターの多くの熱心な釣り客です。そんなリソースを活かし日本中、世界中のアコ釣り人憧れの『釣りの聖地』として、またビギナーから親子連れ、手ぶらでも釣りが大好きな釣りに特化した観光地としてナビゲーションの整備を行なうことでジョバーーと共に他では中々味わえない隠岐遊びを多くの観光客に体験してもらいます。WEB上で旬のスポットや釣り動画の紹介また、観光に特化したコンシェルジュが、釣り具のレンタルから旬の釣りスポットから、漁船の手配、釣った魚の郵送の手配、料理屋の手配など民宿やっているようなサービスをナビゲーションします。民宿だとちょっと気が引けるけど気軽に釣り観光をしたい層を増やしていく、「ネオ民宿」プロジェクトです。

■出張レストランが『美食島』として隠岐の食文化と1次産業のプランディングを“つなぐ”

日本中、世界中から様々なジャンルの料理人が1か月～2か月単位で隠岐の島に滞在し、隠岐の島の食材をつかってレストランを開く出張レストランです。島の食材と様々な調理方法が化学反応をおこし、生産者や島の料理人、住民に刺激を与え食文化の交流と食材のプランディングを図っていきます。期間限定のレストランシェフのファンはもちろん新しい物好きから、料理好き、島前や松江・米子など近隣から多くの人が来るでしょう。豊富な海の幸はもちろん、放牧牛や自然農法など素晴らしいポテンシャルを持った隠岐の食材を日本中世界中にPRする良い機会にもなります。そんな食文化の交流により『美食島』としてジョバーーや『釣りの聖地化』だけではないツーリズム最大の価値を生んでいきます。

■コンドミニアムが観光客と空き家対策、U・Iターンを“つなぐ”

法改正により一つの受付から800m以内の部屋や家をホテルの一室とすることが出来るようになりました。いわゆるアルペルゴ・ディフゾー街一体型ホテルです。ターミナルエリアから4つの町の多くの街一体型ホテルとすることが出来ます。空き家の古民家を利用して長期滞在や家族連れに最適なキッチン付きのホテルコンドミニアムを作っています。観光客にとっては隠岐の島の伝統的な家屋に暮らすように泊まることが出来、ホテルでは味わえない宿泊体験を味わえます。またU・Iターンや若者など賃貸需要のストックにもなり観光客から手軽に住んでみたい人まで柔軟な受け皿になります。4つの町を客足の延びる美しい街にしながら空き家問題を解決していきます。

多様な出会いでつながる交流発信拠点 おき西郷、みなとまち公園街区

海と街をつなぐ西郷港周辺の空間設計と、持続可能なまちづくりに向けた担い手醸成を連携させた、隠岐の玄関口にふさわしいターミナルエリアを提案します。空間設計においては、島の歴史・自然と、良好な住環境のイメージを牽引し、島内外の関係人口を惹きつけるような仕組みをデザイン。年齢や障がいの有無に関係なく、「この島に住み続けたい」「また訪ねたい」と思ってもらえる無数のきっかけを、西郷港周辺につくりだしていきます。人と車の動線を整理し居心地の良い歩行者空間をつくりながら、ユニバーサルデザインを取り入れ、多様性を力に変えるまちづくりと、包摂型社会の実現にむけた実践の場となることを目指します。また、雄大な自然に囲まれた隠岐の環境を生かし、自然と結びついた暮らし方・循環型社会の先駆となるような仕組みと空間を、本整備を通じつくっていきたいと考えます。



01. 交通 交通結節の中心となるフェリーターミナルの機能

1-1. 乗降場・車両動線の整理

ターミナルビルを交通結節の中心として位置付けなおし、船・バス・タクシー等の乗り場を海側に集約します。一般車両の駐車スペースと動線も整理し、歩行者にやさしい円滑で安全な交通結節点を形成します。大型バスに替わるマイクロバスの運行や、将来的な新型モビリティの導入なども視野に入れ、フレキシブルに運用できる計画とします。

バス路線を整理し単純明快な交通結節点とします。まち側に広がる街路では歩道を拡幅し、時間帯により歩行者天国とできるような道路計画とし、歩車分離の安全なウォーカブル空間をつくります。



1-2. 賑わい・安心・安全をつくる、拠点形成の基盤となるストリート

ターミナルエリアの既存道路は、建物の配置・人・車の動線を整理し、歩行者に優しいウォーカブル空間とします。車両事故の危険性を低減せながら、港周辺をただの通過点ではなく、出会いを求めて訪れる、楽しさと居場所のある空間、買い物や食事を楽しむ島の拠点形成基盤へとリデザインしていきます。

1-3. 多様な出会いが生まれる歩行空間のデザイン

「歩行者専用空間」は歩いて楽しいデッキ舗装、「歩行者優先空間」は保水性インターロッキング等で流れる雲や波しおきを思わせるようなデザインとします。車いす利用者、子ども連れ、高齢者など、港周辺を利用する多様な人々が、他の乗り物とも安全に共存し、楽しく利用できる街路をつくります。路地の整備にあたっては、道路幅を拡幅し、ポケットパーク（街中の小さな広場空間）をつくりながら歩行者専用の回遊路を整え、緑豊かで安全・安心な公園街区を目指します。



1-4. 拠点を結ぶ「みどりの回遊ルート」

港には海とまちをつなぐ「みなとガーデン」を新設し、街中の並木やポケットパーク（小さな広場空間）と併せ、西郷公園まで連続するみどりの回遊ルートを設定。緑地を連続させ、街中に人々の滞留スペースを設けることで、身近に自然を感じながら、歩いて楽しい回遊できるエリアデザインとします。



1-5. 島の玄関口にふさわしいフェリーターミナルのデザイン

既存のスカイブリッジを廃止し、ターミナルビル南側・2Fの外周部にバルコニーデッキを新設。バルコニーの下は海から街へ繋がるゲートとなり、併設するカフェが港の新しいミーティングポイントとなります。バルコニーの上にはベンチ等を配置し人々の滞留を生み出し、フェリー送迎時の賑わいを演出します。街側のバルコニーは連続する展望デッキとし、港から西郷公園を望む滞留空間となり、海と街をつなげます。併せてフェリーターミナルの出入り口・外套を改修し、港の拠点としての魅力を向上させ積極的な利活用を促します。

1-6. 海とまちをつなぐランドマーク「みなとガーデン」

船着き場の輪郭に沿ってデッキウォークを配置し、ジョギングや散歩、釣りなど、人々が暮らしながら使えるパブリックガーデンとします。内側のバッファゾーンは、着船作業や車両整理に使わないときにイベント等が開催できるようデザインし、日常的に使われる頻度の少ない北側駐車場も併せ、スケートボードなどのエックススポーツ・野外フェス・港まつりなど、多目的に使える屋外空間とします。バルコニーデッキ周辺はポートプラザ前までつながる広場とし、地域イベントなどにも活用できる緑豊かな歩行者空間とします。



02. 交流 多様な出会いが生まれる滞留空間とポケットパーク

2-1. 空地を居場所にするポケットパークのデザイン

文化交流エリア・飲食エリアでは路地を歩行者優先空間へと整備することで、思わず歩きまわりたくなる街並みを創り出します。活用可能な空き家は「賑わいチャレンジスポット」へとりノベーションし、前面道路に接していない既存不適格の建物は撤去後、空き地や駐車場とともに緑豊かなポケットパークへとつくりかれます。まちなかの空き地・空き家を一体に活用し、街路樹・ベンチ・街灯・庇・日除け屋根などで居心地よく滞留できる空間を積極的に設けます。人々を招きこむ空間として、島で暮らす人と訪問者との多様な出会いの場面を演出します。



2-2. 大きなハコモノではなく、ちいさな“居場所”でつくる第3の場所
ポケットパークに面する建物には庇やベンチ、テーブルなどを設置し、ちいさな居場所をデザインします。訪れる人たちが自然に顔を合わせ会話が始まる、まちなかのサロンのような場がポケットパークにうまれます。ポケットパークを介して建物同士が繋がり、いつでも誰かに会える、安心感と楽しみのある第3の場所となります。



03. 防災 日頃の活動と防災を結びつける仕掛け

3-1. 日常動線と災害時避難経路を重ねた計画

既存の通学路や、西郷公園とみなとガーデンをつなぐ回遊ルートなど、日常動線が避難経路としても機能する動線計画とサイン計画を行います。街区の整備で設けるポケットパークは、一次的な避難場所としても使えるほか、火災発生時には延焼防止帯ともなります。オープンスペースの屋外用のテーブルやベンチは災害時の利用を想定するだけでなく、緊急車両の往来時には移動したり収納したりできるものを採用。緑地はレインガーデンとして豪雨時のバッファーとなり、貯水タンクと手押しポンプを併設することで、非常用水としても利用できます。

3-2. 災害時に役立つ交流のデザイン

ポケットパークや公園では、防災訓練を兼ねた炊き出しイベントや街歩きを開催し、顔の見える交流で「もしも」のときに備えるコミュニティづくりを行います。



04. 商業 担い手が集う、持続可能な商いができる場所づくり・制度づくり

4-1. チャレンジを応援する、持続可能なインキュベーション拠点へ

「挑戦できる」「しごとができる」「自立ができる」を実現するスタートアップの港として、商業を活性化し、やりがいを感じられるターミナルエリアを提案します。チャレンジショップ（貸し店舗）、滞在用居住、シェアオフィス、シェアキッチン等を整備・運用し、チャレンジしやすい仕組みと空間を用意。港周辺でのイベント開催を促進し、創業やナリワイズクリエイターを地域全体で支えます。また、島内の既存店舗・漁業・農業などの担い手にとっても、西郷港を起点に全国・世界へとその魅力を発信できるよう、マルシェ等のイベント開催を空間づくりでサポートします。賑わいと地域の生活に必要な小売店や飲食店を増やすことで、生産者や販売者の生産性・収益性と、生活者・来訪者の利便性双方の向上へとつなげます。



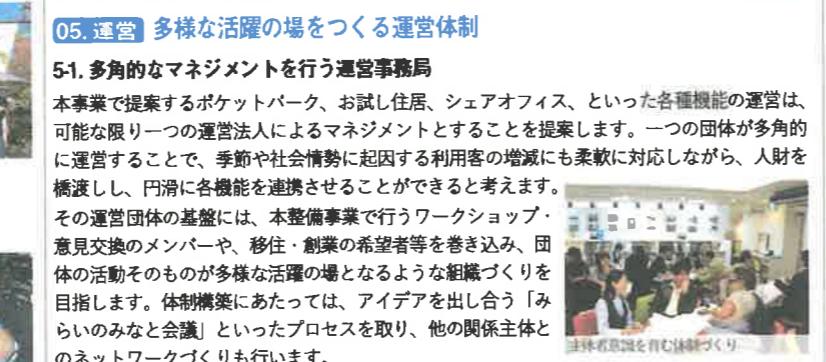
4-2. 多彩な出店者が集う、彩りにあふれる並木通り

社会実証実験を行いエリアの将来像を検討しながら、フェリーターミナルに続く大通りを、商業エリアのシンボルとしての並木通りへとデザインしていきます。道路両側にはデッキウォーカーとベンチを配置し滞留空間をつくり、道路中央はポップアップショップなどを並べたフリーマーケットやキッチンカーによる食のフェスティバルなど、週末ごとのイベントに利用可能なエリアとしてデザインしていきます。島内外の出店者が集い賑わいを生み出し、店舗経営者どうしのコミュニケーションの場としても機能します。



4-3. エリアの将来像を共有する社会実証実験

計画の期間中、並木通りでは社会実証実験としてデッキウォーカーとベンチを設置し、沿道の既存店舗の屋外飲食や物販スペースとして活用できる滞留空間をつくります。既存店のアイディアを引き出し、新規出店者を誘引しながら主体者たちが連携する機会とすることで、まちの将来をともに考え、持続可能な商いのための仲間づくりを行います。

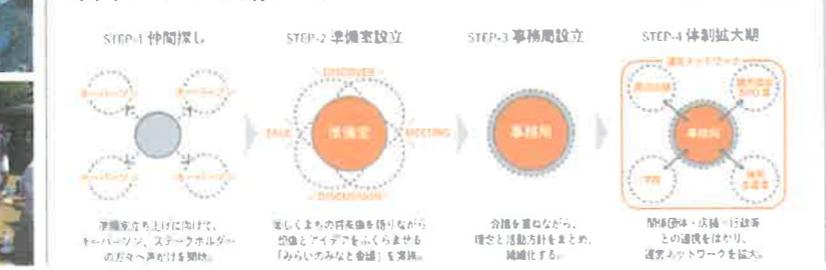


05. 運営 多様な活躍の場をつくる運営体制

5-1. 多角的なマネジメントを行う運営事務局

本事業で提案するポケットパーク、お試し居住、シェアオフィス、といった各種機能の運営は、可能な限り一つの運営法人によるマネジメントとすることを提案します。一つの団体が多角的に運営することで、季節や社会情勢に起因する利用客の増減にも柔軟に対応しながら、人財を橋渡しし、円滑に各機能を連携させることができます。

その運営団体の基盤には、本整備事業で行うワークショップ・意見交換のメンバー、移住・創業の希望者等を巻き込み、団体の活動そのものが多様な活躍の場となるような組織づくりを目指します。体制構築にあたっては、アイデアを出し合う「みらいのみなと会議」といったプロセスを取り、他の関係主体とのネットワークづくりも行います。



06. 葉しらし 葉しらしに寄り添う整備プロセスと機能配置

6-1. 段階的な整備プロセス

段階的なプロセスで、隠岐らしい街並みや風土を継承しながら、循環型社会に対応した多様なライフスタイルの場面をつくります。地域密着エリアでは既存の空き家をリノベーションしながら、暮らしに必要な機能を配置し歩行空間で繋げます。隣接するポケットパークにはレインガーデンや共同菜園を設け、日常的なコミュニティの場面をつくります。また、将来的な空き家の増加を想定し、段階的な建て替えで「新しいけど隠岐らしい」街並みを誇ります。

6-2. ライフスタイルを自分好みに選べる暮らし方

暮らしに必要な機能を大きなひとつの中建物に集約するのではなく、既存の建物・空間資源を活かしながら小さな機能を点在させることで、まちなかに人々の往来を生み出し、訪れる人々にとっても暮らしの温かみを感じられる場をつくります。子育て世代・高齢者・移住者等、さまざまな暮らし方やライフステージに合わせ、フレキシブルに活用できる空間を増やすことで、自分らしく消費や生産の方法を選びとることを可能にします。



6-3. あんき市場とマルシェ広場

地域密着エリアにある空き家をリノベーションし、日常生活にも使われている「あんき市場」を移設します。2階には地域図書館とコワーキングスペースを配置し、地域課題を相談する関係人口窓口として、中高生の学習活動の場として活用します。隣接する空き地はマルシェ広場として建物と一緒に活用し、地域生産者などの出店場面を促進します。



6-4. 新しくて隠岐らしい街並み建築「隠岐モデル」の提案

既存の町屋の切妻屋根を継承し地域材を活用した木造3階建ての建築を提案します。1Fには託児所、認知カフェ、店舗、2階には地域図書館やコワーキングスペースなど地域生活に必要な機能を配置し、3階には住居やゲストハウスなどの生活スペースを配置します。



07. 連携 各機能の連携を深める取り組み

7-1. 連携する街並みづくり

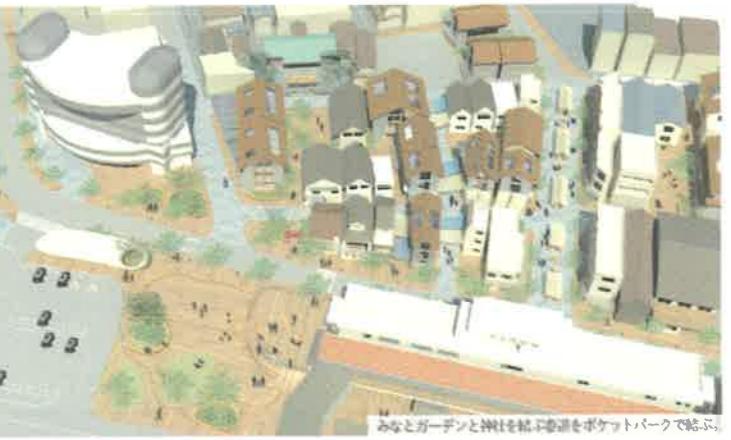
ベンチ・街灯・植栽・庇・日除け屋根（タープ）などを組み合わせ連携するストリートファニチャーをデザインします。統一感のあるサイン計画や、運営事務局づくり等のソフト整備と合わせ、多岐に渡る機能の連携を図ります。



08. 景観 人々の営みと自然との繋がりを感じられる景観づくり

8-1. 人々の営みと個性を活かす、賑わいのあるまちなみ

かつて、人々の営みと自然のつながりによって賑わっていた港の光景を、これから西郷港の景色のなかに呼び起こせるよう、海とまちが人でつながる景観をつくります。まちから海、海からまちを望めるよう、既存のスカイブリッジを廃止し、街区を整備しながら港から神社の敷地まで一本の参道で接続。人々の往来でまちと海を結びつけられるようデザインします。連続する庇や街灯、日除けタープ、並木を設け、歩行空間全体に統一感のある舗装を施します。リノベーションして活用する古い建物と、まちに新しい光をあてる新築の建物をおりませることで、人々の営みの温度感や個性を反映する、豊かなまちなみを形成します。



8-2. みどりを育てる仕組みのデザイン

みどりの回遊ルートやポケットパークでは、高木の落葉広葉樹と低木、草花を組み合わせた隠岐らしい生態系で、ゲリラ豪雨などにも強い、貯水力のあるレインガーデンをつくります。樹木や緑地の周りにベンチやテーブルなどで滞留できる空間をつくり、生態系サービスを享受できるグリーンインフラストラクチャーをデザインします。地域の主体者と一緒に樹種選定・植樹を行うことで、街や環境への愛着を形成するとともに、植樹後の持続的な管理につながるモチベーションを築きます。

8-3. まちなかで育む循環型の暮らし

ポケットパークに設置したコンポストステーションでは、家庭から排出される生ゴミや河川の有機ごみ、西郷公園や街区の落ち葉を混合して有機肥料をつくり、ポケットパークの菜園や島内の農家に提供します。自分たちでつくった有機肥料で育てた苗木を、島内の緑化や環境改善のために活用する「西郷すぐすくセンター（仮）」をハブエリアに設け、地域の主体者たちが協働し、循環型の暮らしや子どもたちのための環境教育を実践できる場をデザインします。



09. サイン ワークショップ形式で取り組む隠岐らしいユニバーサルデザイン

ターミナルエリアの利便性を高め、街の各機能の連携を円滑にするため、サイン計画では認識の混乱を防ぐ情報整理やデザインの統一性への配慮のほか、多くの人に見やすく正確に伝わるデザインであることが欠かせません。私たちは本整備期間を通じ、住民のみなさんとサイン計画を検討するワークショップを行いたいと考えます。利用者・運営者・住民といった立場の違いや、年齢や障がいの有無による見え方・使いやすさの違いを互いに知る機会をつくり、合意形成を図りながら、隠岐らしさを反映するサイン計画に取り組みます。



さまざまな「道」でつながるまち



まちづくりあたって大切なこと

住む人にも訪れる人にも愛されるまちを目指して
西郷港周辺地区のまちづくりにあたり、以下の3つを大切にします。

1. 隠岐の島の方々と、ともに考え、ともにつくる
2. 対象敷地内にとどまらず、まち全体について考える
3. 既存のまちの歴史を生かし、未来へと段階的に育てていく



海からの美しい風景



海岸線の記憶をつなぐ灯笼

デザインのコンセプト

さまざまな道によって、人々の暮らしや生業が

編み込まれたまち
海と台地をつなぐ
「縦の道」と、等高線
に沿って生活をつなぐ
「横の道」を中心には
新しい道や路地、海
への抜けをつくること
で、人々の暮らしや
生業が道によって編み
込まれた、音と匂いの
感じられるまちを提案
します。



地形的特性とまちの歴史に呼応したゾーニング

海から台地への等高
線に沿って、交通タ
ーミナル→商業→住居
とエリアごとに機能を
変化させていくことで、
まちの地形的特性を
尊重するとともに、
各年代ごとに埋め立て
られてきたまちの歴史
が未来においても感じ
られる計画とする。

対象地の読み解き

風景に向かい合う「港エリア」と賑わい溢れる「まちエリア」
広々とした港湾の
「港エリア」と、家が並
び親密な「まちエリア」
のそれぞれにあった
まちづくりを提案。
「港エリア」は遠くの
風景に応答するように、
「まちエリア」は周辺
の町とのつながりを
意識しながら計画する。



台地上に位置する目印としての屋根を中心に石州瓦の風景が増えていくことで、地形と建築が一体となったここにしかない景観が生まれる。

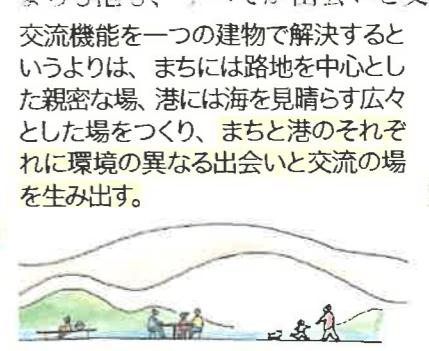
西郷港周辺地区を交通結節点とした交通機能

分散した交通機能をまとめ、まちを人の居場所に
分散した交通機能を使い勝手
良くまとめ、臨港道路をはじめ、
「まちエリア」をひとが
歩いて楽しめる、賑わいのある
空間とする。



人々が滞留し、交流する空間

まちも港も、すべてが出会いと交流の場になる
交流機能を一つの建物で解決する
というよりは、まちには路地を中心とした
親密な場、港には海を見晴らす広々
とした場をつくり、まちと港のそれぞれ
に環境の異なる出会いと交流の場
を生み出す。



人々のふれあいを生かした商業空間／住み続けることができる暮らしの機能

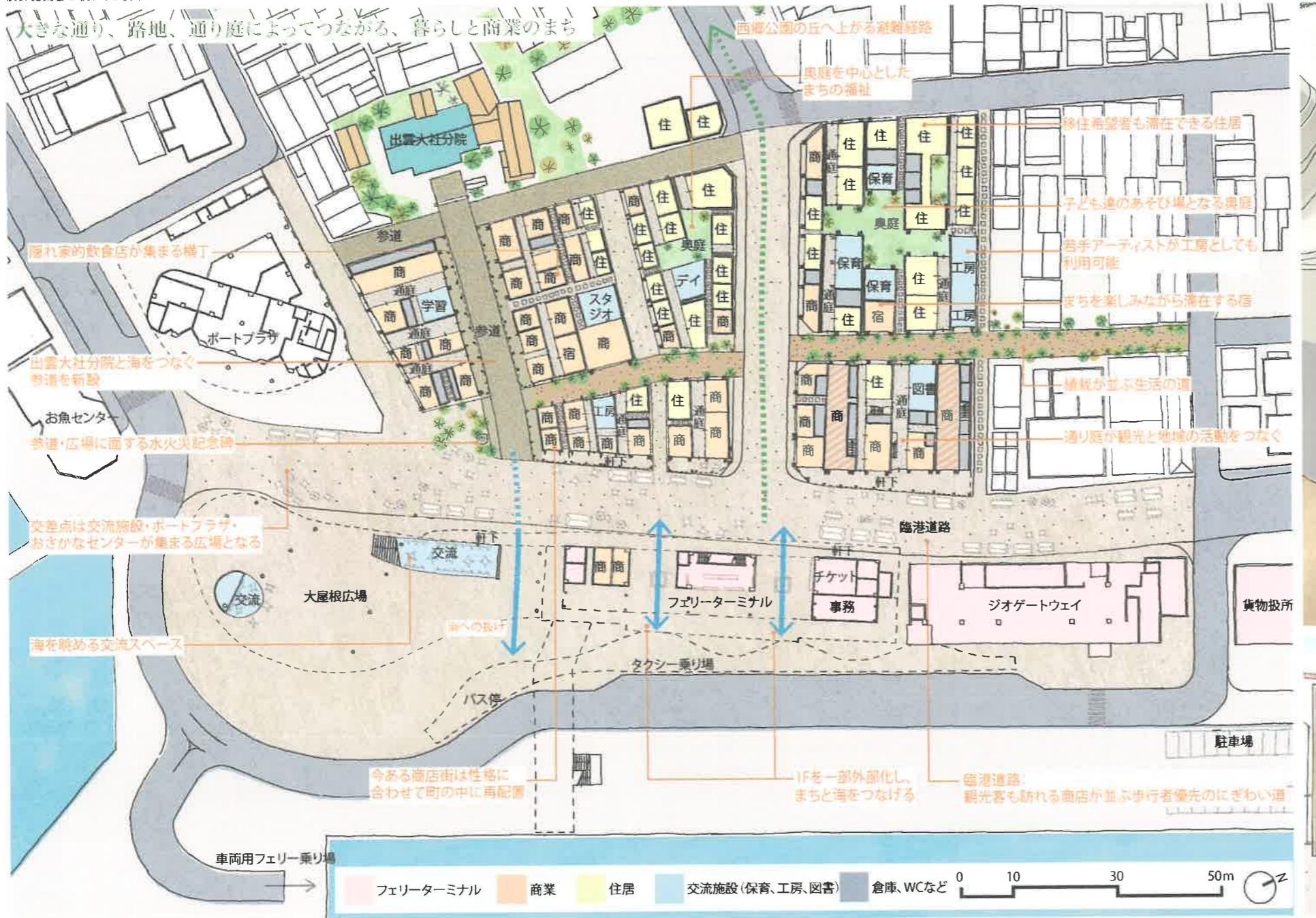
性格の異なる道が暮らしと商業の中心となる
出雲大社分院から海へつなが
る参道、両側に賑わいのあふれ
る臨港道路、緑あふれる生活
の道など、まちに編み込まれる
様々な道が暮らしと商業の中心
となる。



防災についての考え方

まちを見守る屋根が
避難時の目印になる
まち全体を見守る西郷公園に
特徴的な屋根をかけ、シンボル
となると同時に避難時の目印と
なる。避難経路にあたる道には
舗装として三角形の石を埋め
込み、避難方向を示す。





暮らしが商業が一体となった、色、音、匂いの感じられるまち／各機能の連携を深めるための手法

通り庭によって縦横に活動が編み込まれる、気配に満ちたまち

「まちエリア」の建築には「通り庭」を

通し、大きな通り、路地、通り庭が

ネットワーク状に編み込まれたまちを計画する。

大きな通りは島内・島外の人々が利用する商業エリアに、路地や横丁は隠れ家的なお店に、通り庭や奥庭は保育所やデイサービスなど暮らしの拠点となり、まち全体に様々な音や匂いが展開する、気配に満ち溢れたまちとなる。



街割りを踏襲しつつ、更新できる建築形式

西郷港周辺地区では等高線

に沿った道に直交するよう

に家が立ち並んでいる。

地形的特性から生まれる

骨格(街割り)

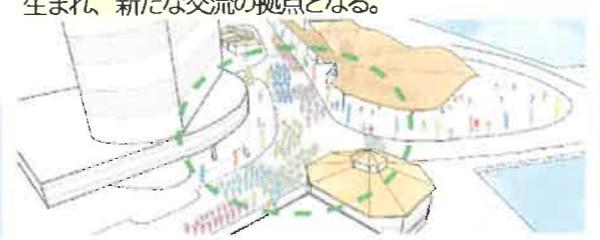
を踏襲することで、新しく更新しながらも既存の家屋や周囲の集落と連続する計画となる。



既存施設と連携した交流の場づくり

交差点が広場になり、交流が生まれる

ポートプラザに隣接する交差点を中心に、大屋根広場、フィッシャーマンズワーフが集まることで広場が生まれ、新たな交流の拠点となる。

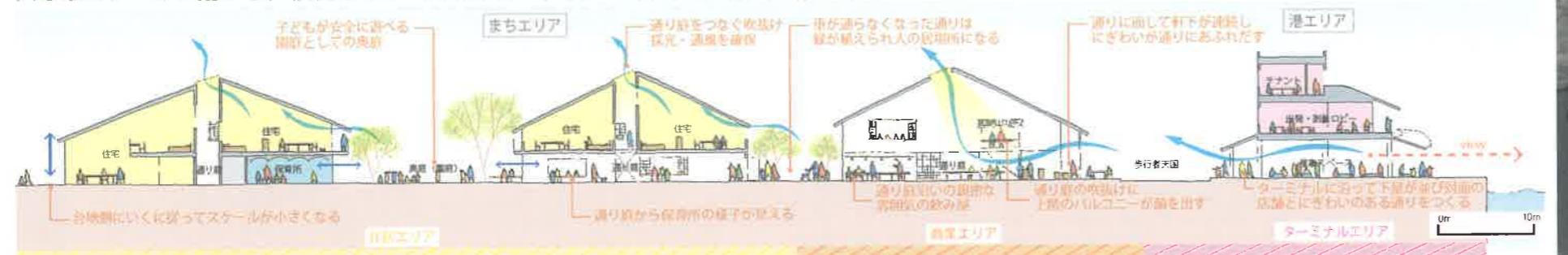


大屋根広場は海や風景と向かい合う大らかな海沿いの居場所として、まちと海をつなげる拠点となる。半屋外スペースは産直市場や地域のイベントに、屋内スペースや子どもたちの自習スペースや、地域の交流活動の場としても使われる。



断面イメージ図

大きなスケールの港から、親密なスケールのまちへ、徐々に機能と雰囲気が変化する



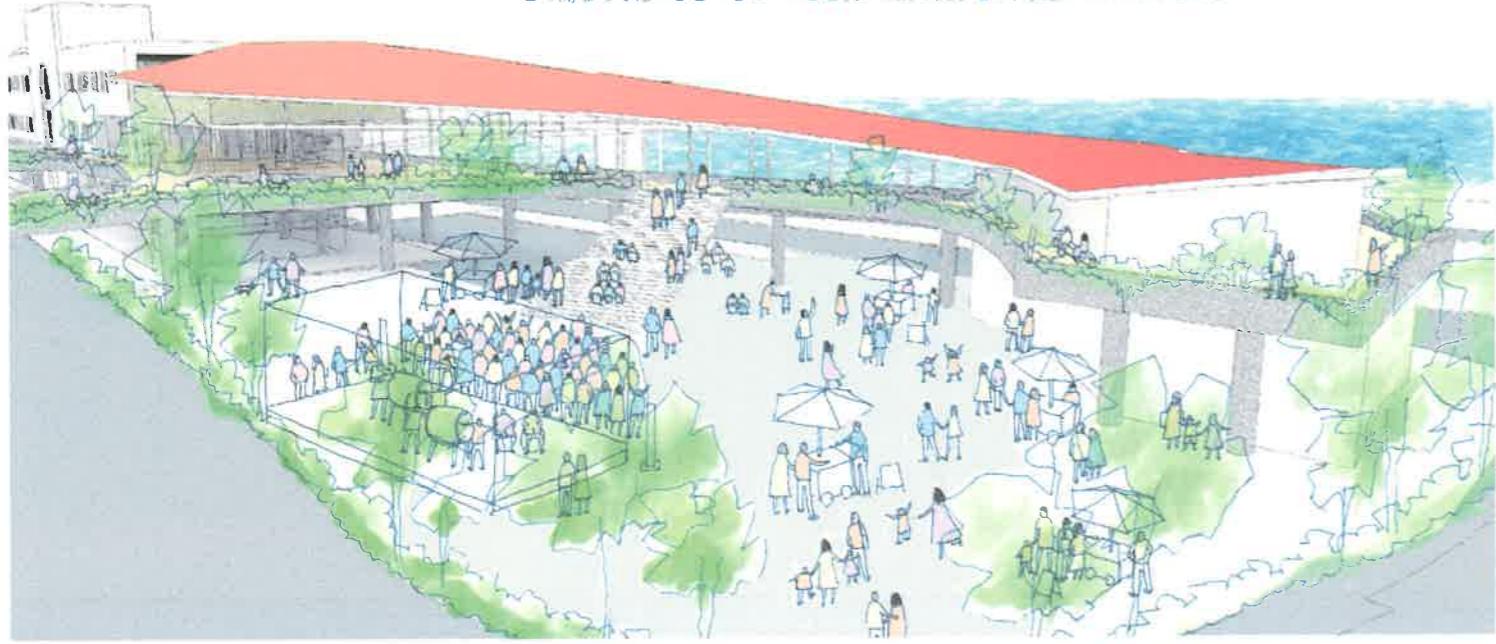
照 明計画

やわらかな光が港から台地までをあたたかく彩る



成長していく島のプラットフォーム

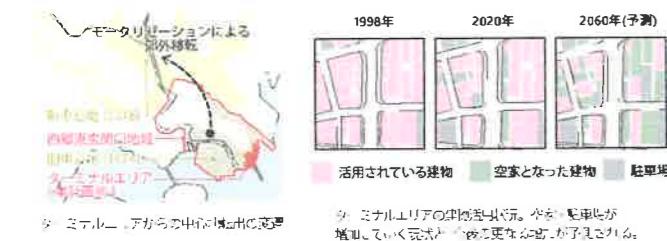
彼らは本計画において、西郷港地域を起点に島全体が活性化するという隠岐の島全体の将来ビジョンを描くこと、それを実現するための活動体とそのための場づくりを実現することが重要であると考えました。本計画では、隠岐の島やジオパークに関する多様なひと・もの・ことが集まる場と仕事場を、時代とニーズに合わせて段階的に具現化させていきながら、この島ならではのひと・もの・ことを次々と生み出す場を、実現したいと思います。



問題分析

ターミナルエリアが縮っている状況

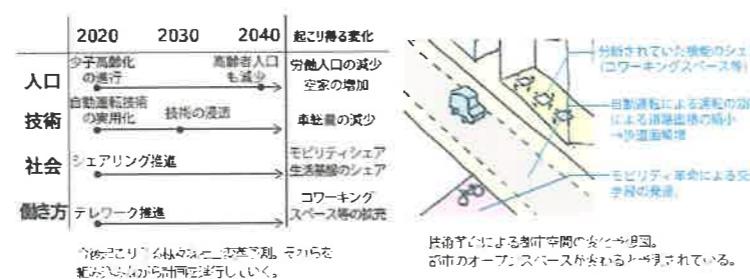
モータリゼーション化により、ターミナルエリア近隣が担っていた中心市街地としての機能は、郊外へ移転しました。旧中心市街地は、高齢化・建物の老朽化により歯抜け状に空家・駐車場が増えており、まちとしての魅力を失いつつあります。社人研推計によると 2010 年に 1.5 万人だった隠岐の島の人口は、2060 年には 0.6 万人（約 60% 減）と予測されており、今後更なる人口減少が進み、空家や駐車場も増加の一途を辿ることになります。



理念

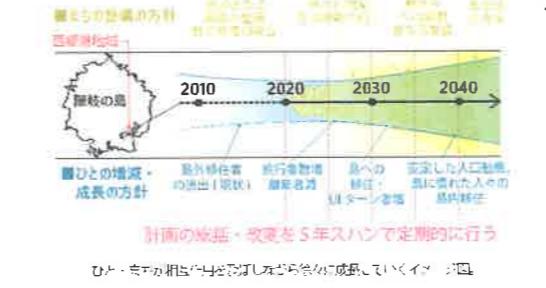
今後 20 年の社会の変化に対応しながら計画を進めていく

今後 20 年を見渡すと、自動運転など新技術やモビリティサービスのような新サービスの発展が、都市や道路空間の再分配を引き起こすことは様々なレポートで予測されています。本プロジェクトでは、未来の予測からまちの現状を資源として再解釈し、都市のダウンサイジングと、技術・サービスの進化を前提とした、新しいまちのあり方を提案します。



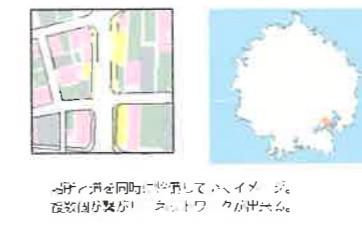
一度に作らず、徐々に作り上げる

よって、短視野の単発で終わる開発ではなく、長期的視野にもとづき、議論を重ねながら柔軟に全体像を調整する進め方を提案します。まちの整備と人口の増加、運営組織の成長を徐々に相互作用させながら育てていく狙いでいます。



「みち」と「場所」が伸びていく

徐々に成長していく計画を成立させるために、様々な出会い・活動場所となる「場所」と、それらを繋げる動線空間である「みち」をキーとしてデザインを考えました。時間の経過とともに、繋がりながら徐々に延長していくイメージです。汎用性の高い仕組みなので、今後、この敷地を超えて、島全土にも適応する事が可能な考え方です。



20 年の中で目標を定めるフェーズ設定

「西郷港玄関口まちづくり計画」（以降「西郷港計画」）の完成目標である 2039 年に向けて、大きく 3 つのフェーズを設定しました。それぞれのフェーズ毎に、まちの整備目標と、人に与える影響の目標を設定します。隠岐の島町の都市計画と並走しながら進めています。

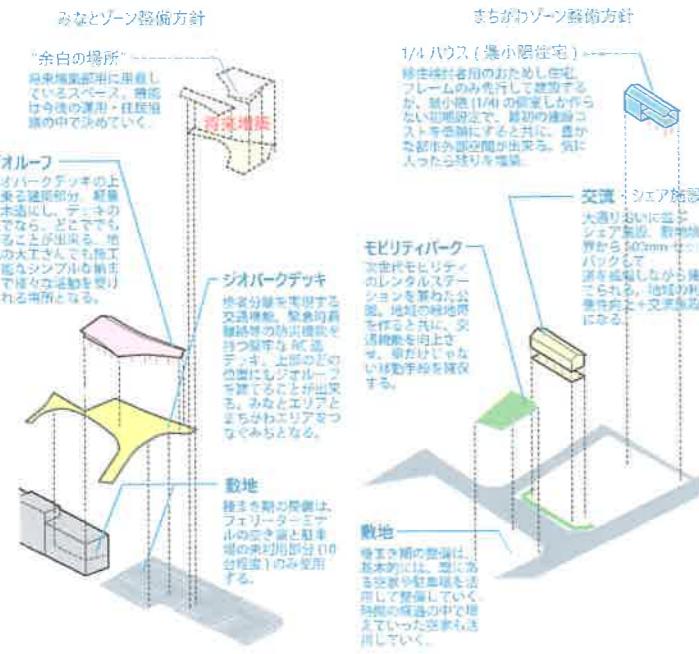
種まき期 (2022-25 年)	成長期 (2026-35 年)	拡散期 (2036-39 年)
ひとつの成長	移住にむけて 利便性向上 便利な誰か 来る人を増やす。 出る人を減らす。 新しい仕事を増やす。	島全体に波及する。 各機能がつながる複数の「全白の場所」の実現

3つのフェーズごとに、まちに整備目標とひとつの目標を定める

ゾーニング計画

既存の空き地・空き家の活用から始め、豊かな未来に到達する、整備方針

汽船場通りを挟んだフェリーターミナル側を「みなとゾーン」、まち側を「まちがわゾーン」と設定し、それぞれの特性を読み取り、整備方針を計画します。両ゾーン共に既存の施設の空き地・空き家の活用から初期整備を開始する無理のない計画です。そして 20 年間かけて社会の変化に対応しながら成長していく、長距離視野を持った射程範囲の広い計画です。

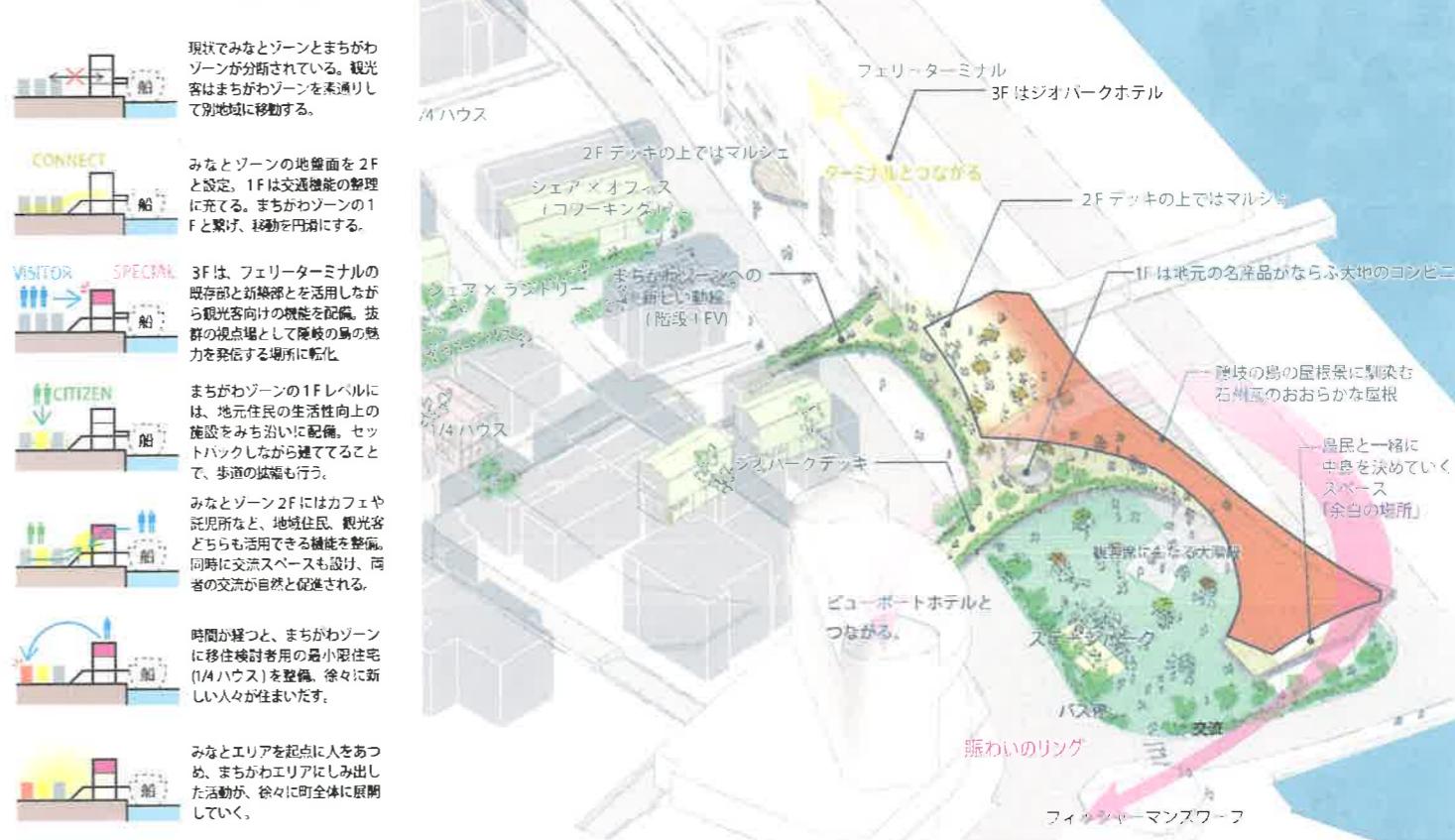


現実的な交通整理から始め、最終的には技術革新と並走する交通計画

種まき期（初期）では、既存駐車場近辺をターミナルエリア近辺の煩雑な交通網を、現実的な範囲で整理するところから始めます。同時に次世代モビリティのステーションの整備を進めていき、長期的には自動車技術の革新に対応するまったく新しいターミナル空間を実現します。



時系列によって徐々に機能が変わっていく、経時型ゾーニング

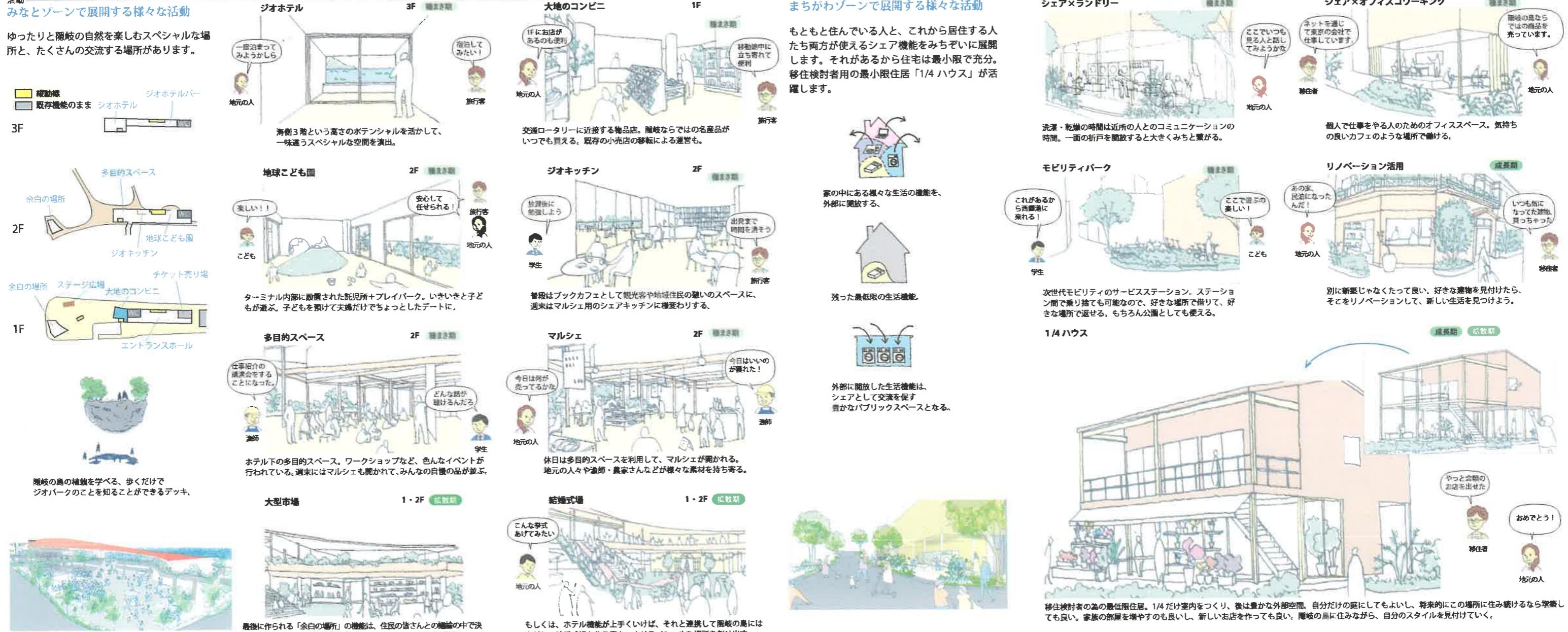


活動 みなどーんで展開する様な活動

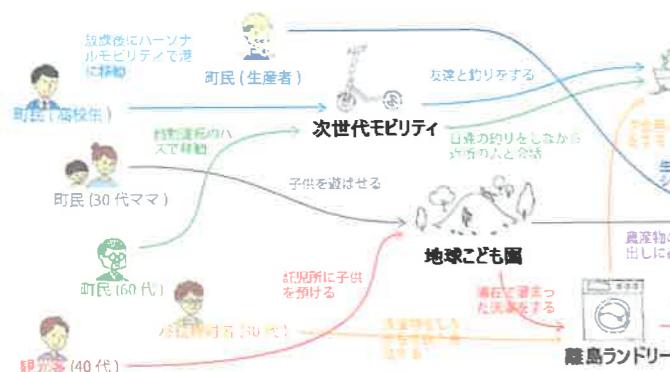
ゆったりと隠岐の自然を楽しむスペシャルな場所と、たくさんの交流する場所があります。

機動棟
 賦存機能のまま
 ジオホテルバー

3F
3F
3F

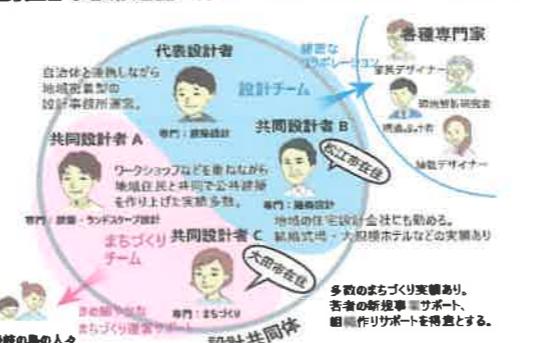


活動 いろんな人々が交わる。新しい隠岐の島の生活



人々の豊かな活動をサポートする設計体制

経験豊富で地域密着型の設計プロセスに特化したチーム体制です。



まちがわゾーンで展開する様な活動

もともと住んでいる人と、これから居住する人たち両方が使えるシェア機能をみちぞいに展開します。それがあるから住宅は最小限で充分。移住検討者の用の最小限住居「1/4 ハウス」が活躍します。



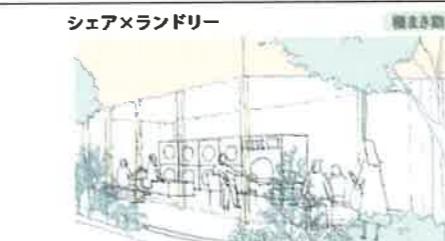
家の中にある様々な機能を、外部に開放する。



残った最低限の生活機能。

シェアランドリー

洗濯・乾燥の時間は近所の人とのコミュニケーションの時間。一面の折戸を開放すると大きくみちと繋がる。



シェア×オフィスコワーキング

ネットを通じて東京の会社で仕事をしています。
個人で仕事をやる人のためのオフィススペース。気持ちの良いカフェのような場所で働ける。



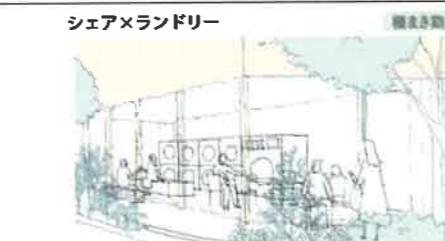
まちまき期

隠岐の島ならではの商品を売っています。



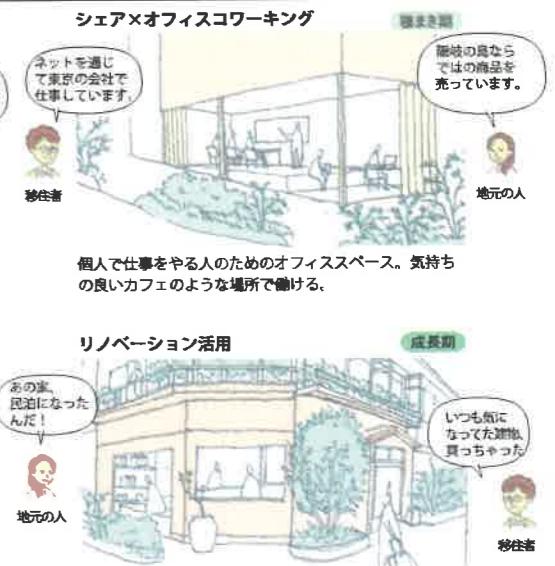
モビリティパーク

これがあるから西郷港に来れる！



リノベーション活用

あの家、民泊になったんだ！



1/4 ハウス

外部に開放した生活機能は、シェアとして交流を促す豊かなパブリックスペースとなる。



移住検討者の為の最低限住居。1/4だけ室内をつくり、外は豊かな外部空間。自分だけの庭にしてもよいし、将来的にこの場所に住み続けるなら増築しても良い。家族の部屋を増やすのも良いし、新しいお店を作っても良い。隠岐の島に住みながら、自分のスタイルを見付けていく。

構造・素材

この場所ならではの構造形式と素材選び

上部躯体：大造することにより軽量化を図り、支持するジオパークデッキの基礎を合理的に計画することが可能となります。



補剛材を使用することで、木材を分割し、3M以下の流通材のみで施工できる、特殊な工法を用いない経済的な計画です。



床板は充分に取り、上蓋部材の設計内容に応じてフレキシブルに対応できる計画とします。



横葺：隠岐の島特有の植栽を抑え、歩くだけでジオパークの歴史が学べるような空間にします。

石州瓦屋根：
ジオゲートウェイや西郷港エリアに多く分布する切妻屋根を継承し街並みに自然と溶け込みながら、海風を利用し自然対流を促すことで、自然を感じながらしっかりと過ごせる空間をつくります。

外壁：地域の土を利用した、土壁の強さとし上げとし、防水・耐塩害性能を充分に確保します。自然素材ならではの風合いが、ジオパークらしさを演出します。

デッキ床仕上：安全性に十分に配慮した人工木デッキです。

RC部：柱ピッチ8m程度の經濟スパンで設計しています。表面はかぶりひびを考慮以上に取り、耐塩害性能を確保します。その上で洗い出し仕上とし、まるで岩盤のような風合いを表現します。

西郷港ポートキャンパス～ココロとカラダに優しい街区

「海一まち」の街は「船待ち」の場。出会いを待つ希望の空間を導きます

長い歴史において、西郷湾を守り続けた「間口」の地形。愛宕山と金峰山に挟まれた幅約280mの「間口」の地形は、船で島を訪れる人にとって「島の玄関口」であり、港で船を待つ人々にとっては「間口」の間から静かに現れる船を見て、心浮き立つ「出会いの地形」でもあります。

私たちは西郷港のこれまでの都市軸に加えて、街から西郷港の「間口」へ向けた軸線を、海とまちをつなぐ新しい「海・まち軸」としてエリアに導入します。エリア内のみち・場所・海との関係を再編し、島人、客人、誰もがくつろぎ、語らい、楽しめる街へと生まれ変わることで、島に暮らす楽しみ、海と暮らす喜びを未来につなげます。

「海・まち軸」による街区の再編

『海・まち軸』を導入し、オープンスペースの立体的ネットワークをつくります

- A 船待ち交流街区（A棟）
- B まちなかくつろぎ街区（B棟）
- C コミュニティ・エントランス（C棟）
- D 出会いの広場（新設）
- E 町営駐車場1の移設・立体化によるエリア内通過交通の低減
- F エリア内街区の立体接続
- G 歩行者空間の充実（臨港道路拡幅・バス停、タクシー乗り場再整備）



1 交通：エリア内通過交通を低減、街区間を立体接続

安全安心なウォーカブル街区を実現します

町営駐車場1をB棟（まちなかくつろぎ街区）内に立体駐車場として移設。街区間をブリッジ接続することで、キャンバス内の通過交通を低減し、エリアの歩行安全性を向上させます。地上部にバス・タクシー乗降場を再配置、フェリーターミナル前の臨港道路を幅員15mに拡幅して歩道を確保。ウォーカブルなポートキャンパスを実現します。



2 交流と滞留：ココロとカラダを癒し、育てるキャンパス

町民のサードプレイスとなる船待ち交流街区：出会いの広場 + 船待ちテラス + 温浴施設 + 島の大学を「海・まち軸」上に配置

出会いの広場：町営駐車場1跡地には、海の時間とまちをめぐる「出会いの広場」をつくり、お祭りなど様々なイベントに活用できます。多世代の島民が憩い、離島に流れる豊かな時間を共有する場所を育てます。

2F「船待ちテラス」：大階段を登ると屋根のある2階の吹き抜けの公共広場へ。冬でも快適に船の往来を眺めて過ごせます。大階段には無料で楽しめる足湯も設置。テラスに面して中高生が運営しサードプレイスとなる「VA(ヤングアダルト)プレイス」を配置。

3F「健康温浴施設」+「島の大学」：旅の疲れ、仕事の疲れを癒す温浴施設は、ジャグジー・テラスから海を眺めることができ、離島ならではの海水温浴（タラソテラピー）で健康になれます。また、島の内外、多世代を対象とした会所「島の大学」を設置。交流と人材育成の場となります。



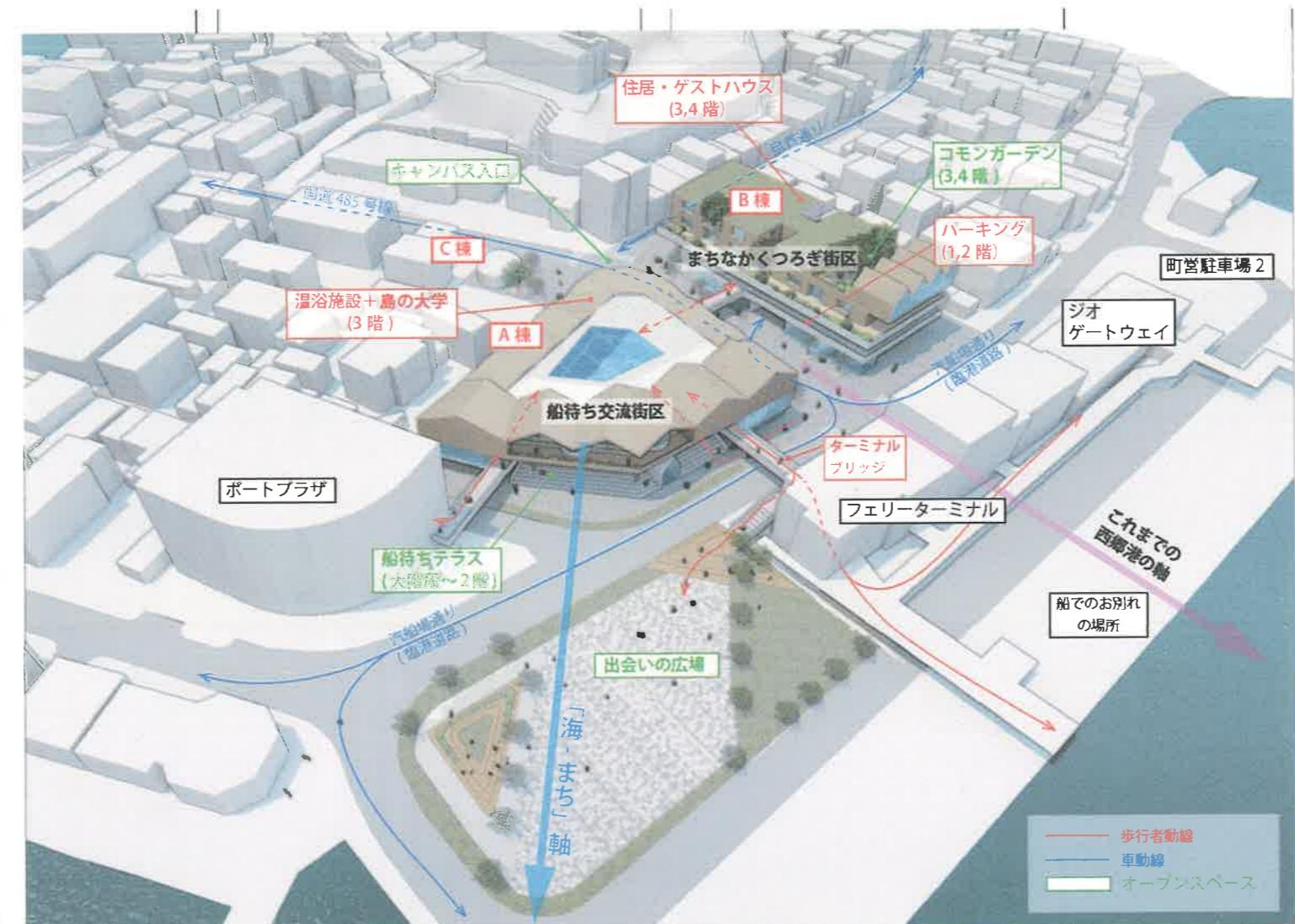
3 商業：人々のふれあいをサポートする

沿岸の店舗と「離島フードホール」

路面店舗：ポートキャンパスの中心を通る国道485号線、フェリーターミナルに向かいの臨港道路に沿ってB棟（まちなかくつろぎ街区）の1階に路面店が並びます。広くなつた歩道に屋外席も設置。歩いて楽しいみちの景観をつくります。

フードホール：A棟（船待ち交流街区）の1階には島内のフードホールを設置。町の方と協議し、あんき市場も移設することを検討し、島内外の食の交流を促進します。

チャレンジショップ：既存の店舗はもちろん、新しく島で創業するチャレンジショップも展開しやすい様に小規模に分割可能なテナント設定とします。



4 葉らし：安心して住み続けられる居住区

生活の拠点となるまちなかくつろぎ街区

まちなかくつろぎ街区（B棟）：1, 2階は立体駐車場と店舗が占め、災害に対して安全な3, 4階に住宅・ゲストハウスを配置します。A棟やターミナルへは直接ブリッジで快適にアクセスできます。

既存の住民の皆さんと、短期～中期滞在のゲストハウス利用者は、コモンガーデンによって適度に距離感を持って生活できます。また海が見える4階海側の一角は、シェアラウンジとしてイベントなどに貸し出すことも可能です。

5 景観：キャンバスの脳わいが人々を出迎える。

離島の人々によって作られる参加型の景観づくり

船で「間口」を抜けて西郷港にやってくる人が、初めて離島のまちと出会うのが「海・まち軸」上に見える「出会いの広場」、そして大階段から「船待ちテラス」につながる光景です。

広場で行われるイベントや、大階段で足湯を楽しむ人々、テラスでくつろぐ人々、上階には温浴施設を楽しむ人々の気配を感じられます。

初めて訪れる人も、帰ってくる人も、西郷港に降り立つ前に、ポートキャンバスの脳わいに迎えられているような、まちの顔になる景観を目指します。

6 つながり、防災：安心・安全な学びの場

活動のつながりと人のつながり

キャンバス内のつながり：A棟、B棟、ターミナル、ポートプラザを新たにブリッジで接続し、駐車場からキャンバスのあらゆる場所に安全で快適にアクセスできます。

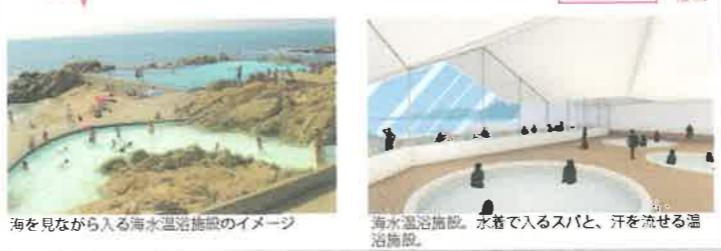
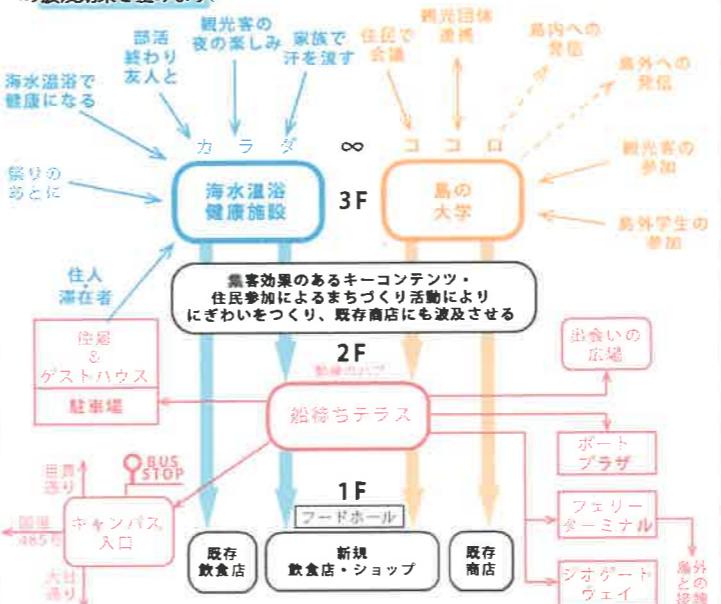
人のつながり：A棟3階「島の大学」では、ジオゲートウェイで活動する専門家の皆さんと島民が学び合いの関係を深められるだけでなく、リモートで全世界と繋ぐ学びも行えます。

津波浸水と八尾川のはん濁の際に浸水地域に指定され、B棟の一部は土砂災害警戒区域（急傾斜）に指定。居住区は3F以上に配置している他、2Fの「船待ちテラス」が緊急避難場所として機能します。

7 プログラムと空間の関係性

キーコンテンツのにぎわいを街区に波及させる空間構成

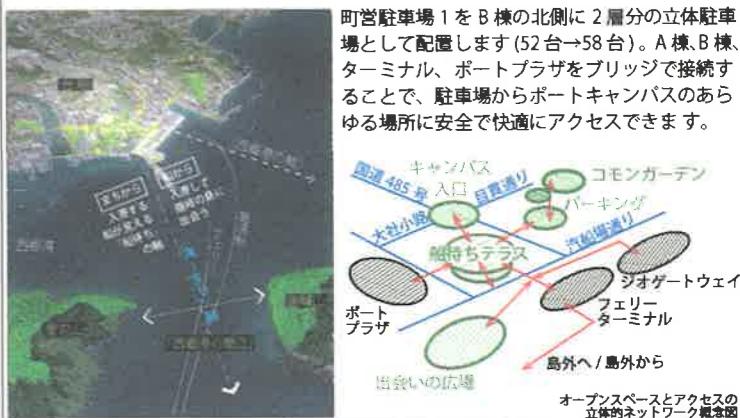
海を見ながら海水温浴を行い、心も身体もリフレッシュし健康になる「健康温浴施設」は、住民が一緒にまちづくりを行える「島の大学」と合わせて、にぎわいを創出する2大コンテンツです。これらを3階に配置し、2階を回遊の中心を「船待ちテラス」とすることで、エリアのにぎわいをつくり、既存の商店やレストランなどの波及効果を生みます。



8 地形や周辺地域との関係性

玄関口として人々を迎える

北前船の寄港地であった西郷港の玄関口に、新しい「海・まち」の軸線をつくり、迎える顔をつくりながら、離島の自然を感じるオープンスペースを整備します。

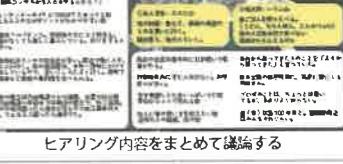


9 現状の課題を抽出する

あるいは、きいて、手を動かす町民目線の計画づくり

要綱や意見交換会の意見を反映するだけでなく、実際に訪れて現地の人の話を伺い、課題を抽出します。生活に根差した話も伺い、率直な現状を把握します。

基本計画の際にも関西の学生を巻き込んだワークショップとしてヒアリングを行い、そのプロセスから交流人口を増やし、より町民目線の計画づくりに反映します。



マネジメント

10 島の大学という拠点

島の魅力を知り、子どもたちにつないでいく

住民・町役場・観光団体と大学の連携によって地域のまちづくりを行ってきた実績のあるチームによるサポートの元、大学のない離島の島に「島の大学」を作ります。

交流の中でまちづくり活動を行う人材育成・体制づくりを行います。



マネジメント

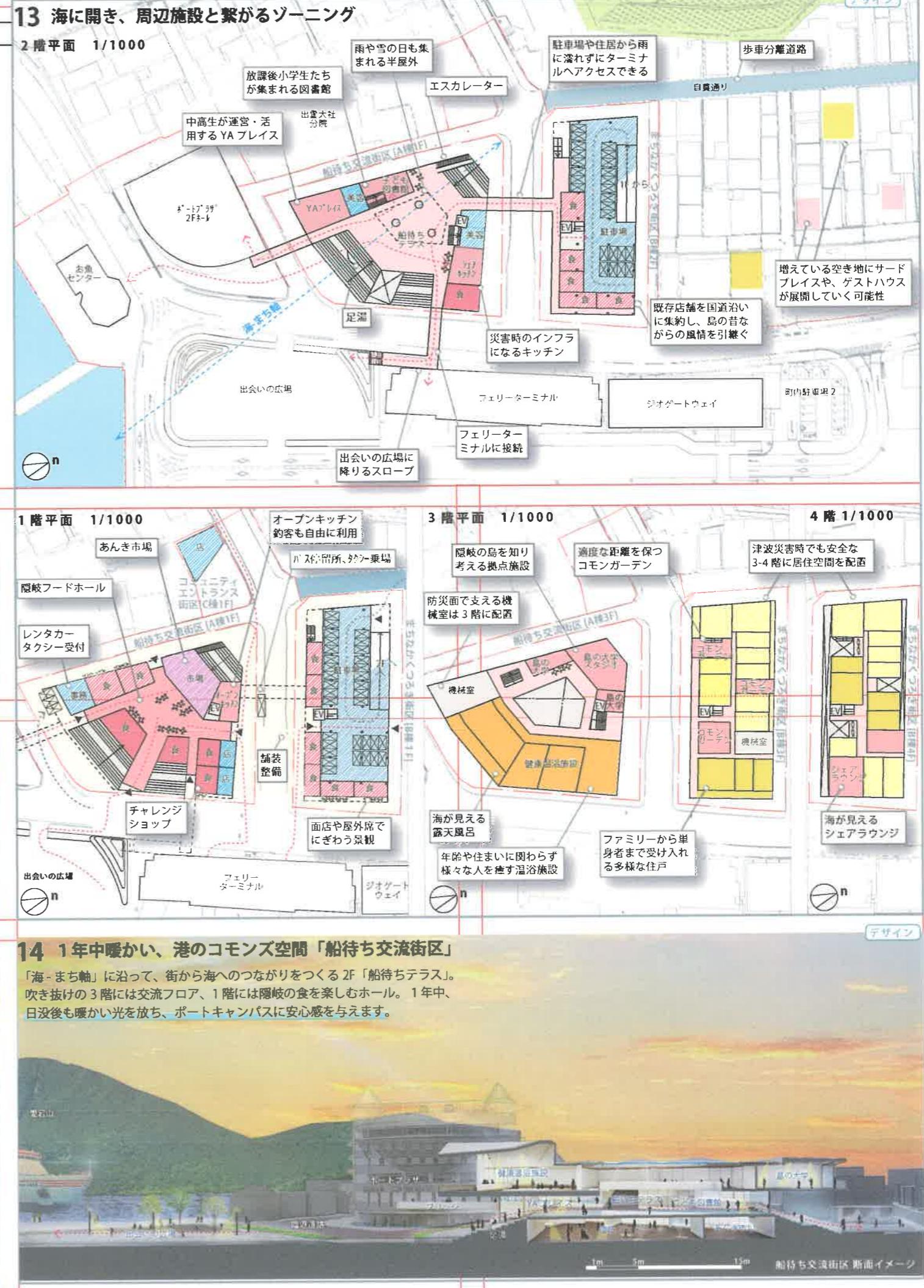
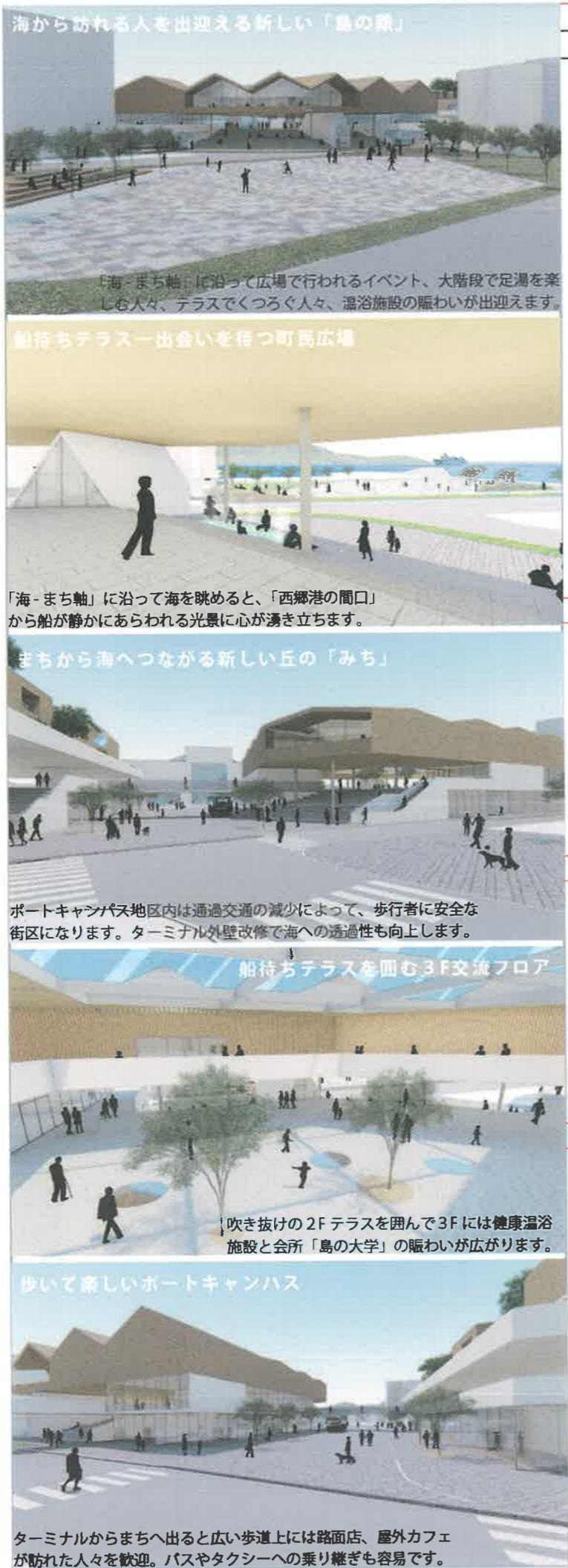
11 計画の進め方

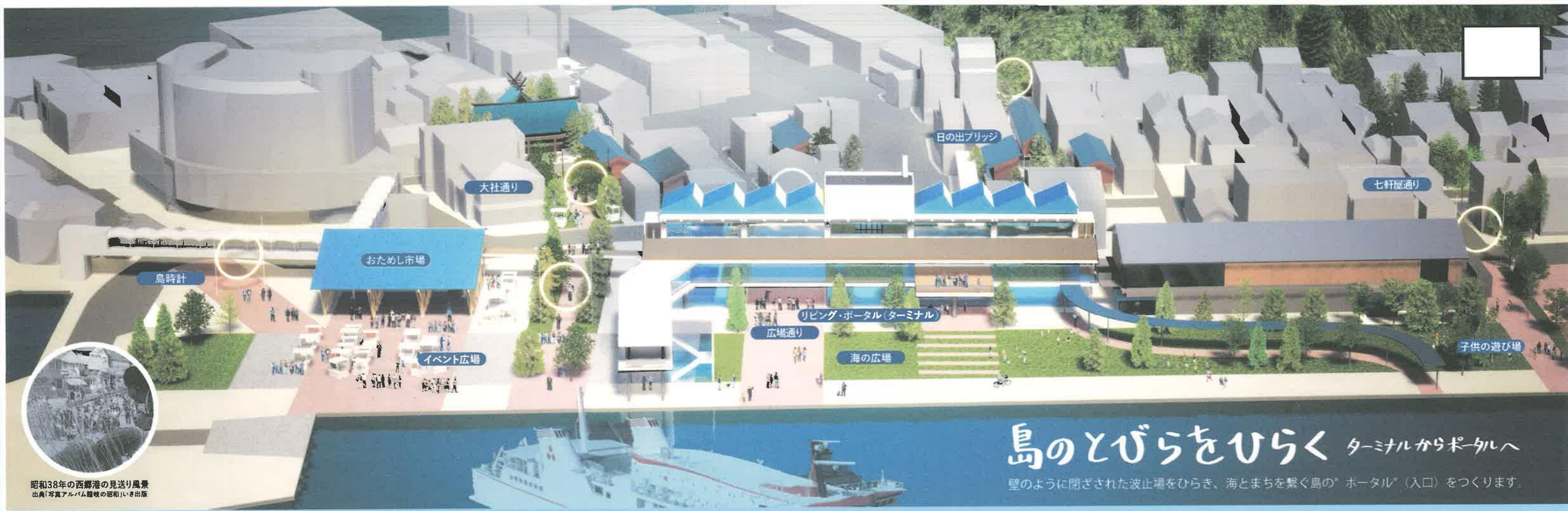
ハードの設計と並行してソフトをつくる

基本計画の段階から、ハードの計画を進めながら、実績を含んだ人材育成、発掘のサポート体制により、住民皆が使いこなせる体制をつくり、島の大学の立上げ・初動を行います。



マネジメント



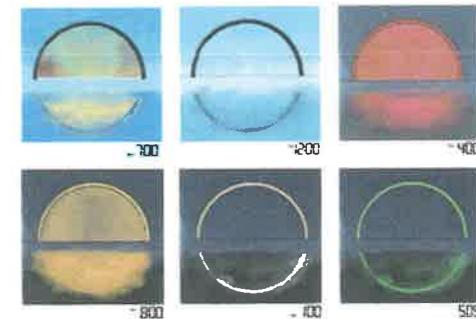
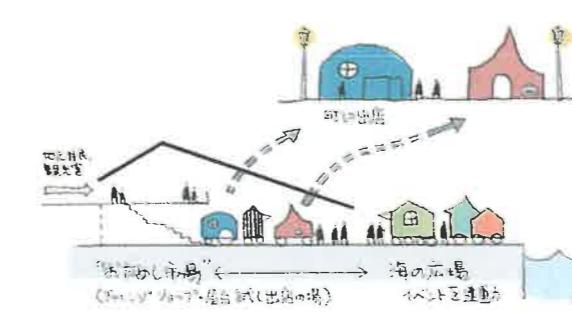
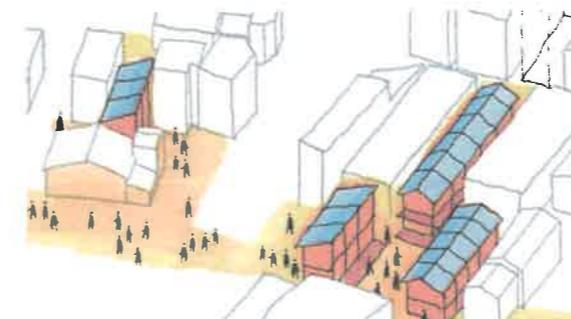
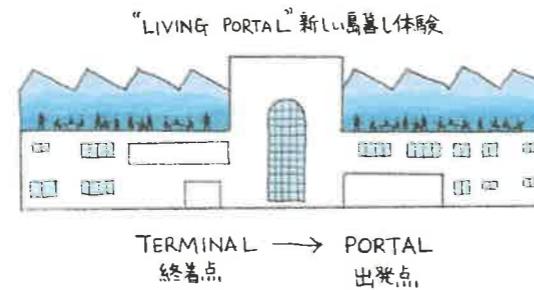
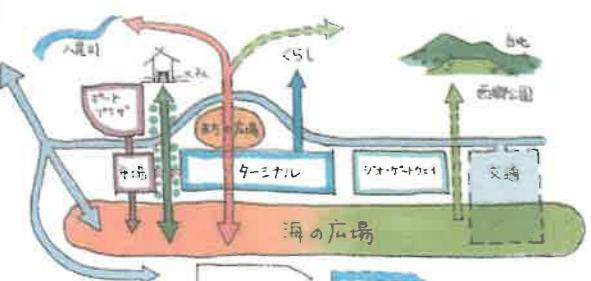


昭和38年の西郷港の見送り風景
出典「写真アルバム鹿嶋の昭和いき出版」

島のとびらをひらく ターミナルからポータルへ

壁のように閉ざされた波止場をひらき、海とまちを繋ぐ島の“ポータル”（入口）をつくります。

5つのデザインコンセプト



1. 通りを再生してまちと海をつなぎなおします

敷地を東西に貫く通りの空間を再生し、道路や建築によって断絶されていたまちと海の空間をもう一度繋ぎます。西郷港の埠頭をまちにとって重要な位置に位置づけ、再整備し、古くからの集落と海辺の関係を再生します。

2. リビング・ポータル

ターミナル（終着点）をポータル（出発点）に改修して、ワーキングホリデイやワーケーション滞在を通じて若い人々に島の良さを見渡してもらう施設を作ります。気軽に滞在できる小さな宿泊施設とコ・リビング施設を中心とした滞在・交流施設です。

3. 町割をいかしたコンパクトなまちづくりを行います

海沿いの街が持っている山⇒海方向に細長い短冊状の構造を尊重し、街並みに沿った「通り」を作ります。面的に開発するのではなく、要所要所にポイントを設けることで、費用対効果の高いまちづくりを進めます。住民や行政の方と慎重に議論しながら計画を進めます。

4. 地域全体を「島の学校」にします

この地域を、島に移住してそこで生活を始める人たちの「島の学校」にします。空家をコ・ワーキングスペースにしたり、チャレンジショップを出店できる市場を用意したり、島での新しい生活を組み立てるための学びと挑戦の場所にします。

5. 「島の時間」を過ごす場所をつくります

海の方向を示すサインとして色や光り方がゆっくりと変化する「島時計」を提案します。波の音や時間によって徐々に変わる光に照らされた海の広場はゆっくりと流れる島の時間を感じることが出来る場所です。災害時には避難方向を示す誘導灯にもなります。



①交通

島の様々な活動が行われる「海の広場」

- 公共交通（バス・タクシー）の乗り場を埠頭南側にコンパクトに集約し、海側に大きな広場空間「海の広場」とターミナル一体的に整備します。

○ 海の広場はウルトラマラソンの発着、夏祭りなど様々なイベントに、既存ターミナルやジョギングコースと一緒に利用可能な空間となります。

②まちとターミナルをつなぐ「まちの広場」

○ ターミナル西側の汽船通りを現状よりも西側に付け替えることにより、既存ターミナルのまち側に「まちの広場」を創り、まちとターミナルをつなぐ空間とします。

③街と海を結ぶ「通り」の空間

○ 既存のまちの「大社通り」「広場通り」「日の出ブリッジ」「七軒屋通り」を整備して、集落から海の広場への動線をつなぎ、利用者にとって視認性の高い空間とすることで集落と広場の関係を整理します。

○ 路地裏に追いやられている出雲大社西郷分院から海の広場までを繋ぐ参道空間をつくります。

○ 新たな市場や既存のポートプラザなどの商業空間はターミナルから2階レベルですべてつなぐことで、分かりやすい動線計画とします。

④新規

すぐに入れる明快な避難動線

- 広場やターミナルからすぐに山まで逃げられる明快な避難動線を整備します。

⑤交通

小さなお店から若い起業家を育てるおためし市場

○ ターミナル横に小さな商店が出店できるおためし市場を整備し、チャレンジができる環境を整えます。

○ 海の広場と大社通りに接して、気軽に立ち寄れるおためし市場やお土産店を作り、イベント時に広場と一緒に使ったり、緑日に出店するなど街に開いた商業施設とします。

⑥新規

海とまちのつながりを感じることができる景観

○ それぞれの「通り」からは海を望むことができ、通りを通して、海に下っていくことができます。

○ 「海の広場」は海沿いのこの町のシンボルとなると同時に、様々な活動が行われる島の人々にとっての大きな公園のような場所となります。

○ 駐車場の玄関口にふさわしい景観

○ 海の広場からは、観光、商業、交流、文化歴史のあらゆる空間に直接アプローチすることができます。様々な「島の魅力」を知ることができます。

対話を重ねてつくり上げる実現可能な未来志向のスケジュール
○ 住民の方々やデザイン会議、関係者との対話を重ねながら、つくり上げていくスケジュールを提案します。定期的なワークショップの開催やデザイン会議との連携を図ります。

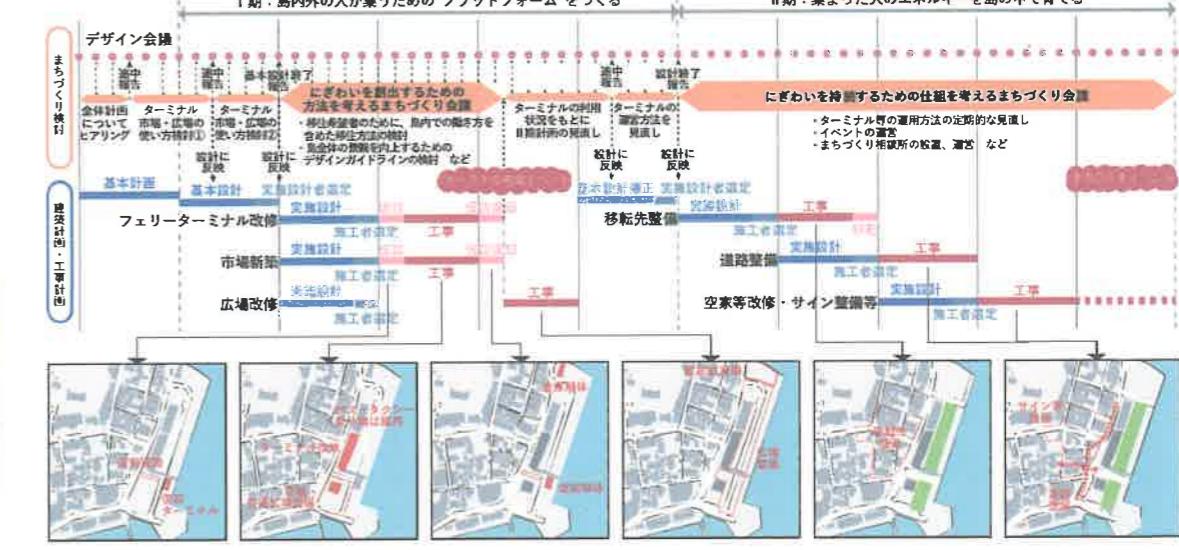
○ 島内外の人々が集まる中心となるターミナル整備や広場の整備を先行して進めることで、早期に賑わいの中心をオープンします。

○ ハード整備の話を進めるのと並行して、賑わいを創出するための運営戦略について議論します。（I期）

○ 関係者との対話・調整が必要な町なかの整備をII期とします。じっくりと議論をし、全員が納得した上で再整備を進められるスケジュールとします。



2022.4 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2032 2033
I期：島内外の人々が集うための「プラットフォーム」をつくる
II期：集まつた人のエネルギーを島の中で育てる



海の広場/島の時間

イベント時
土日

平日

ウルトラマラソン
スタート!

パドルボード
漁師さん答所
として開放する
シニア屋
ラジオ体操
大の駆け



8:30 フェリー発

8:45 高速船発

8:54 高速船発

牛糞き締めで
お出迎え

出迎しない牛で
お出迎え

島内ポスターの
締め

シニア屋の集合所

未開学見本遊び

マルシェ

シニア屋
ゲーボール

マラソン締め

20~30代向け
競技力

板走り大会

シニア屋

11:25 フェリー発

11:40 フェリー発



海港プラザ会場
ワークショップ

14:00 フェリー発

15:10 フェリー発

子供たちの遊びの締め

NPOによるエコツアーや
講習会場として活用

チャレンジショップ

高校生による西郷体験も含む
サブアップストアの提供

テントサウナ

宿泊者を対象に食材を販売

16:33 高速船発

16:39 高速船発

キッチンカー出店

(大人のチャレンジショップ)

18:30 フェリー発

ナイトマーケット

ナイトしげさフェス

島郷の島の歴史を学ぶ
レクチャー開催

大社西郷分院縁日

出張撮天風呂

海の映画館

天体観測

たき火

花火

花火

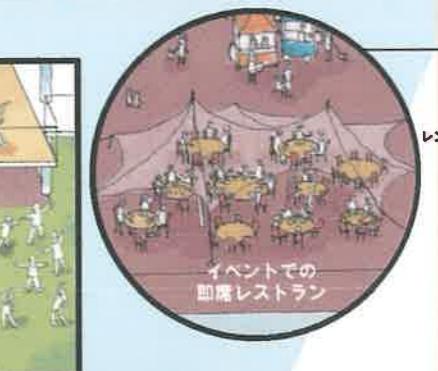
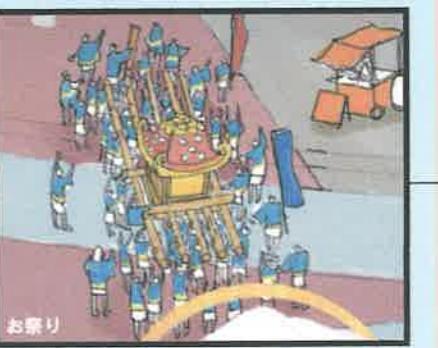
交流

街の公共スペースとしての大きな広場

- 大きな「海の広場」は町の様々なイベントを行う公共のスペースとして開放します。日々の暮らしの中で気軽に浜に出ることができ、山に向こうから出る朝日やその日の海の色を眺めることができます。
- 大きな広場は、この地域だけでなく尾崎の島町全体のシンボル的な空間であり様々な活動が企画されるスペースです。

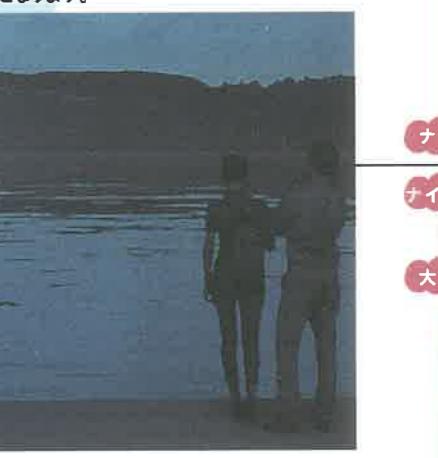
文化活動やお祭りとも連携できる「大きな広場」

- 大きな広場からはジオバークや大社の参道に直接アクセスできます。広場では島開きのお祭りや重き開きパレードのイベントなどの伝統行事のイベントも行われ、尾崎の島町の文化や歴史に触れることができます。



「島時間」を生み出す島時計

海の方向を示すゲートでありサインとなる「島時計」はゆっくりと色調の変わるものであります。また、島の中に点在するサインです。同時に災害時には避難所を誰でもわかる形で誘導するサインとなります。



交通

- ターミナルの前に人の集まる小さな「まちの広場」をつくります
- 汽船場通りは、西側に緩やかなカーブを描くような線形に付け替えを行い、ターミナル西側に「まちの広場」を生み出します。
- 移転が必要な既存建物ができるだけ少なくなるように線形を設定して実現しやすい形とします。ターミナル前に訪れた人々が歩いたり集ったりバスやタクシーなどの交通の結節点となる場所となります。

公共交通の乗り換え空間を集約します

- 公共交通（バス、タクシー）の乗り換え空間は大きなロータリーを作らず、コンパクトに市場南側に集約し、交通の結節点とします。
- ターミナルから市場を経由した動線とすることで、フェリー乗降客の滞留、バスの待合など利用者の利便性が高い配置とします。
- この広場は、レンタサイクル、電動キックボード、グリーンスローモビリティなど様々な交通モードへの乗り換えが可能な空間とします。

一般駐車場を南北に集約します

- 一般駐車場は、埠頭の南北に集約し、北側、南側双方からの利用者が利用しやすい配置とします。
- 南側の立体駐車場は現状のまま利用してコスト抑制をします。
- 現ターミナル南側及び北側の駐車場は、現況台数を保ちながら埠頭北側に集約します。



谷らし

- 長長い木造組工法の建屋によってまちを更新します
- まち側エリアについては更新していく建物や増築・建て替えを行う建物について住民や行政の方と議論を重ねて計画を進めます。
- 在来工法のシンプルな架構のによって島の技術で更新・建て替え可能な細長い建築を提案します



未来のエネルギーと伝統的な環境づくりを組み合わせて提案します

- 太陽光や風力などの自然エネルギーを活用し、発電した電力はターミナル機能やくらし機能などピーク時間の異なる施設で融通しあうことで自家消費率を高め、地域内で効率よく使用します。
- 「島時計」の将来的な電力として、尾崎で実証事件が行われている海洋エネルギーの活用も想定します。
- 海からの強風に配慮し、建築開口部や「通り」の周囲に植栽帯を設け、伝統的な海沿いの松林のように海風からまちを守る建築を提案します。

商業・交流

まちに開かれた「市場」が未来のビジネスの可能性を広げます

- 市場は観光客や地元住民など様々な人が集まる場所であり、常に毎日のような賑わいのある楽しい場所となります。
- キッチンカーや可動式の屋台を推奨し、この場所だけにとどまらない、ビジネスのやり方を広げられる仕組みを推奨します。
- 尾崎の黒松・磯野杉の流通材と大断面材を適材適所に用い、フレキシブルで開放的な空間を経済的に作ります。

